

LB データの自動暗号化とUSB制御 USBロック2 Pro

EsCOMPUTER

販売元：株式会社ライフボート
開発元：株式会社エスコンピュータ

利用ガイド



LIFEBOAT
a megasoft company

『LB USBロック2 Pro』のプログラムと利用ガイドは、著作権法で保護された著作物であり、その全部あるいは一部を株式会社エスコンピュータの事前の明示的な許可なく複製したり、転送したり、格納したり、他のコンピュータ用に変換したり、あるいは他の言語に翻訳したりすると、著作権の侵害になります。

「LB USBロック」、「LB ファイルロック」は、株式会社ライフボートの商標です。MicrosoftはMicrosoft Corporationの登録商標、Windowsは同社の商標です。その他の商標は、それぞれ該当する会社が所有する商標です。

注意

本ドキュメントに記載されている情報は、予告無しに変更されることがあります。株式会社ライフボートは、本ドキュメントあるいはプログラムに記載されている内容に対していかなる誤りが含まれる場合にも、一切の保証を行いません。

EDITION

June 2025

Copyright© 2025 by Lifeboat, inc.

All rights reserved.

PUBLISHED BY

株式会社ライフボート

東京都千代田区神田神保町2-2-34

ホームページ: <https://www.lifeboat.jp/>

目次

第1章	LB USBロック2 Proの概要.....	5
第1節	LB USB ロック 2 Pro について.....	5
第2節	動作環境.....	6
第3節	アクセスコントロールの内容について.....	6
第4節	注意事項.....	7
第5節	よくある質問(FAQ).....	8
第6節	旧バージョンからの設定移行について.....	8
第7節	LB LogViewer2 について.....	8
第2章	インストール.....	9
第1節	インストール.....	9
第2節	ライセンスキーの入力.....	15
第3節	初期設定.....	16
第4節	アンインストール.....	26
第5節	サイレントインストール.....	27
第3章	動作の確認と設定変更.....	29
第1節	ユーティリティーの起動.....	29
第2節	アクセスコントロールの確認.....	31
第3節	削除ツール.....	33
第4節	暗号化コピー.....	34
第5節	復号化.....	36
第6節	ホワイトリストの編集.....	38
第7節	ホワイトリスト以外のデバイスの制御.....	41
第8節	パスワード.....	44
第9節	暗号化コピーオプション.....	46
第10節	ログの収集.....	49
第11節	ログの自動コピー.....	54

第4章	設定のエクスポート/インポート	55
第1節	作業前の準備.....	55
第2節	設定のエクスポート.....	56
第3節	設定のインポート.....	57
第4節	追加/変更した設定のインポート.....	60
第5節	設定の自動インポート.....	61
第6節	ホワイトリストの CSV エクスポート/インポート.....	63
第5章	LB ファイルロック3 Portable	65
第1節	LB ファイルロック 3 Portable の概要.....	65
第2節	注意事項.....	65
第3節	ユーティリティ.....	66
第4節	暗号化.....	67
第5節	復号化.....	72
第6節	設定変更.....	74
第6章	LB パスワードメーカー	81
第1節	LB パスワードメーカーについて.....	81
第2節	インストール.....	82
第3節	アンインストール.....	85
第4節	ユーティリティ.....	86
第5節	生成ポリシー.....	87
第6節	履歴.....	88
第7節	設定.....	89

第1章 LB USBロック2 Proの概要

第1節 LB USBロック2 Proについて

『LB USBロック2 Pro』は、PCからの不正なデータの持ち出しを防止するため、利用可能なUSBストレージの制御、持ち出しデータの自動暗号化、USB関連ログ記録等の機能を搭載した、PCで外部記憶デバイスを管理するための総合管理ソフトです。

機能について

■USBストレージのアクセスコントロール

登録したUSBストレージのみを使用可能にしたり、各ストレージのアクセス権を設定したりすることができます。

■持ち出しデータの自動暗号化

USBストレージにデータをコピーする際は必ず暗号化するように設定することができます。暗号化は『LB ファイルロック2』形式または自己解凍形式を選択できます。

■USBストレージに『LB ファイルロック3 Portable』を添付可能

『LB ファイルロック3 Portable』を利用して、『LB USBロック2 Pro』がインストールされていない環境でもデータの暗号化、復号化をすることができます。

■制御するUSBストレージのデータ入出力時にログを記録可能

USBストレージの着脱履歴、暗号化コピー時および、ローカルPCへ復号化する際にログを記録することができます。

■パスワード自動生成ツールを付属

『LB パスワードメーカー』が付属しており、『LB USBロック2 Pro』と連携動作させることができます。

■ホワイトリストのインポート/エクスポート

USBストレージのホワイトリスト(アクセスリスト)をエクスポートして他のPCへインポートすることができます。

■スマートフォン等の接続を制御

スマートフォンやデジタルカメラ等のPCへの接続を禁止して、これらのデバイス経由によるデータの持ち出しを制限することができます。

第2節 動作環境

<本ソフトのご使用に必要なシステム>

- 対応OS：日本語Windows 11/10
- 対応機種：上記OSが正常に動作するPC
- CPU：1GHz以上のインテルx86またはその互換CPU
- ハードディスクの空き容量：50MB以上（ログ保存時は、保存用の容量が別途必要）
- メモリー：4GB以上
- その他：USB機器および利用可能なUSBポート(2.0以上)

第3節 アクセスコントロールの内容について

『LB USBロック2 Pro』をインストールした環境では、ホワイトリスト(アクセスリスト)を作成して、USBストレージのアクセス権を以下のように設定することができます。

ホワイトリストに登録したストレージ(デバイスごとに設定可能)	
①すべて可能	全ての操作が可能です。
②読み取り専用	USBストレージへのコピー、移動、USBストレージ内の削除はできません。
③自動暗号化 (暗号化コピーと 削除※は可能)	USBストレージへのコピーはすべて暗号化されます(通常のコピーやその他のファイル操作に対しては、書き込み不可のディスクと同等に扱われます)。
※「削除ツール」を起動してデータを削除することができます。	

ホワイトリストに登録しないストレージ(すべてのストレージに対して、以下のいずれかを設定)	
④全てアクセス禁止	ドライブの内容を表示することはできません。
⑤全て読み取り専用	読み取り専用ドライブとしてアクセス可能です。

第4節 注意事項

- 本製品はUSBで接続されたストレージのアクセス権を制御するためのソフトウェアです。シリアルATAやIEEE1394等で接続されたストレージをホワイトリストで制御することはできません。
- 識別情報(ベンダーID、プロダクトID、シリアル番号)を持たないUSBストレージを個別に制御することはできません。
- ストレージ領域を持たないUSB機器の制御をすることはできません。
- USBハブを使用すると、ホワイトリストへの新規登録や登録済みのUSBストレージを使用できない場合があります。
- USB機器を制御する他のソフトウェア製品と併用することはお勧めしません。
- パスワードや認証用USB機器を紛失した場合の暗号化データの復旧に関するお問い合わせ、プログラムの起動に関するお問い合わせは一切受け付けることができません。パスワードはユーザー様の自己責任で厳重に管理してください。
- 暗号化コピーで使用できるファイル名またはパスの長さは、各Windowsの仕様に依存します。稼動環境により異なりますが、ファイル名、パス長(フルパス)で指定できる上限は256バイトまでとなります。もし、パス長の制限により正常に処理が行えない場合は、ファイル名や暗号先/復号先を変更してから再度実行してください。
- 4GBを超えるファイル/フォルダーを自己解凍形式で暗号化することはできません。
- 作成済み暗号化ファイルの有効期限やパスワードを変更することはできません。
- アクセスの制御、設定の変更はセーフモードでの実行時には動作しません。

第5節 よくある質問(FAQ)

ライフボートのホームページ(<https://www.lifeboat.jp>)にて、『LB USB ロック 2 Pro』の便利な利用方法や、よくある質問と回答を公開しております。

ホームページの上部にある「FAQ」をクリックして「LB USB ロック 2 Pro」をお選びください。

第6節 旧バージョンからの設定移行について

旧バージョンや『LBUSB ロック Plus』からの移行についてはホームページの「FAQ」をご参照ください。

第7節 LB LogViewer2 について

ボリュームライセンス購入の場合、ログの管理ツール『LB LogViewer2』をご利用いただくことができます。

『LB LogViewer2』のインストーラと利用ガイドは以下の URL からダウンロードをお願いいたします。

<https://www.lifeboat.jp/products/alog2/logviewer.php>

第2章 インストール

第1節 インストール

『LB USBロック2 Pro』のインストール方法について説明します。

注意！ インストール後にはライセンスキーが必要になります。事前にご用意ください。

※ インストールは管理者権限でWindowsにログオンしてから実行する必要があります。

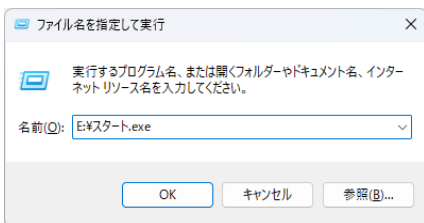
※ 設定のインポートは、エクスポートファイルを準備した上で、インストールを実行する必要があります。通常のインストールをした環境にインポートをすることはできません。詳細は[第4章]をご参照ください。

- 『LB USBロック2 Pro』のCD-ROMをドライブにセットすると、自動再生のメニューが表示されますので、「スタート.exeの実行」を選択してください。メニューが起動しない場合は、Windowsの「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択して、「E:¥スタート.EXE」と入力して(CDドライブがEの場合)、「OK」をクリックします。

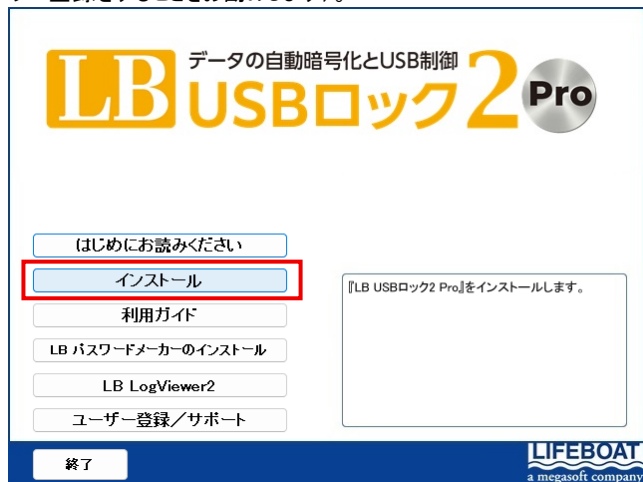


自動再生のメニューが表示されない場合はディスクを参照して「スタート.exe」を実行します。

ダウンロード版の場合、ダウンロードファイルを展開して生成されるフォルダー直下に「スタート.exe」が収録されています。



2. 「インストール」をクリックすると、プログラムのインストーラが起動します（はじめにユーザー登録をすることをお勧めします）。



メニューの説明

ボタン	内容
はじめにお読みください	readme.txtを開きます。インストールを開始する前に必ずお読みください。
インストール	インストーラを起動して『LB USBロック2 Pro』のインストールを開始します。
利用ガイド	今ご覧いただいているドキュメント『LB USBロック2 Pro 利用ガイド』(PDF)を開きます。
LB パスワードメーカーのインストール	『LB パスワードメーカー』のインストールを開始します。
LB LogViewer2	『LB LogViewer2』のダウンロードページを開きます。ダウンロードには製品シリアル番号が必要です。
ユーザー登録／サポート	サポートセンターの利用方法やユーザー登録関連のページを表示します(次頁を参照)。
終了	メニュー画面を終了します。

「ユーザー登録／サポート」をクリックすると、以下のページが表示されます。

データの自動暗号化とUSB制御 **LB USBロック2 Pro**

ユーザー登録

サポート情報を表示

サポートセンターご利用の手引き

最新バージョン情報

Acrobat Readerの入手

管理者用ツール

メニューボタンから項目を選んでクリックしてください。

株式会社ライフボート
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町2-2-34
TEL: 03-3265-1250 FAX: 03-3265-1251

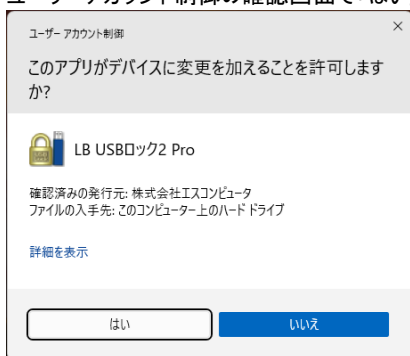
終了 戻る

LIFEBOAT
a megasoft company

メニューの説明

ボタン	内容
ユーザー登録	オンラインユーザー登録ページを開きます。
サポート情報を表示	ライフボートのホームページにアクセスしてサポートセンターのご利用に関する情報を表示します。
サポートセンター ご利用の手引	サポートセンターご利用の手引(PDF)を開きます。
最新バージョン情報	ライフボートのホームページにアクセスして『LB USB ロック2 Pro』の最新情報を表示します。FAQや最新のアップデートはこちらをご覧ください。
Acrobat Readerの 入手	Acrobat Readerのダウンロードページを開きます。クリックします。
管理者用ツール	サイレントインストール関連のツールを収録しています。
戻る	前のページへ戻ります。
終了	メニュー画面を終了します。

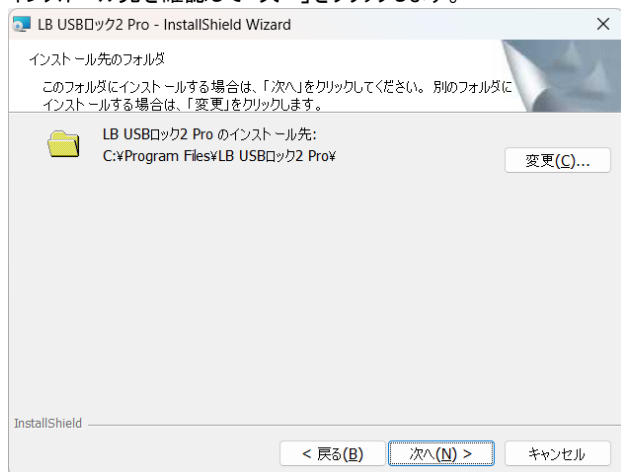
3. ユーザーアカウント制御の確認画面で「はい」をクリックします。



4. プログラムのインストーラが起動します。「次へ」をクリックします。



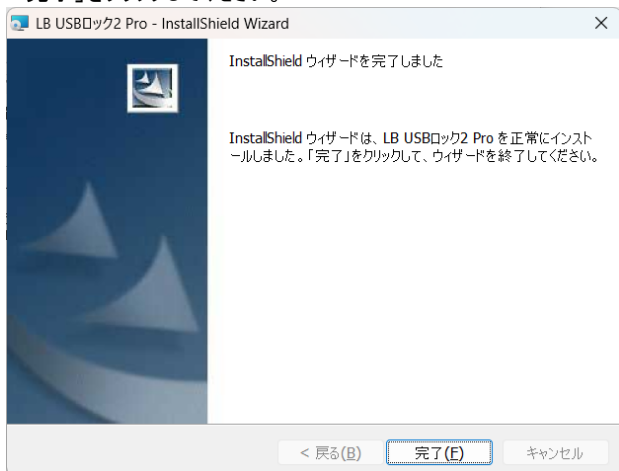
5. インストール先を確認して「次へ」をクリックします。



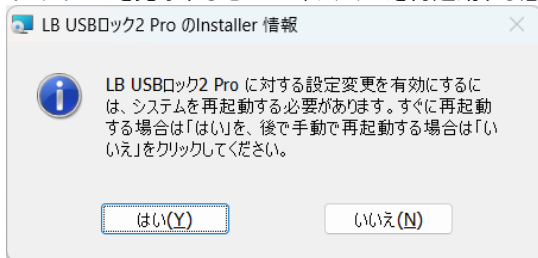
6. 「インストール」をクリックしてプログラムのインストールを開始します。



7. インストールが終了すると「InstallShieldウィザードを完了しました」と表示されます。「完了」をクリックしてください。



8. インストールを完了するためには、システムを再起動する必要があります。



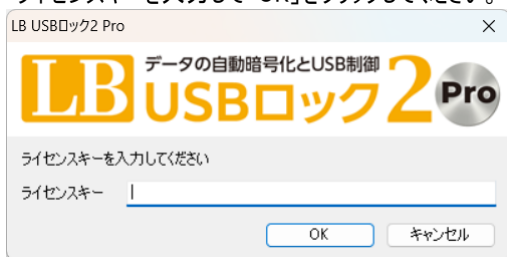
※ システム再起動後、Windowsにログオンしてデスクトップが表示されると、ライセンスキーの入力ウィンドウと初期設定ウィザードが起動します。次節以降をお読みになり、ライセンスキーの入力と初期設定を行ってください。

第2節 ライセンスキーの入力

『LB USBロック2 Pro』を使用するためには、システムの再起動後、ライセンスキーを入力する必要があります。

- ※ ライセンスキーは、パッケージ版の場合、「お客様控え」に記載されています（ダウンロード版では決済完了後に送信されるメールに添付されています）。
- ※ ライセンスキー入力および、次節の初期設定をキャンセルした場合でも、プログラムは動作するため、すべてのUSBストレージがアクセス禁止状態になります。キャンセルした場合、スタートから「LB USBロック2 Pro」を選択するか、PCを再起動してWindowsにログオンすると、ライセンス入力画面が再表示されます。

1. インストール後にシステムを再起動、Windowsにログオンしてデスクトップが表示されると、ライセンス入力画面が表示されます。ライセンスキーを入力して「OK」をクリックしてください。



※ ライセンスキーは半角英数字で入力する必要があります。

2. ライセンスが有効となり、次節の初期設定が表示されます。ライセンスの状態は、初期設定完了後、『LB USBロック2 Pro』のユーティリティを起動して「バージョン情報」タブから確認することができます。

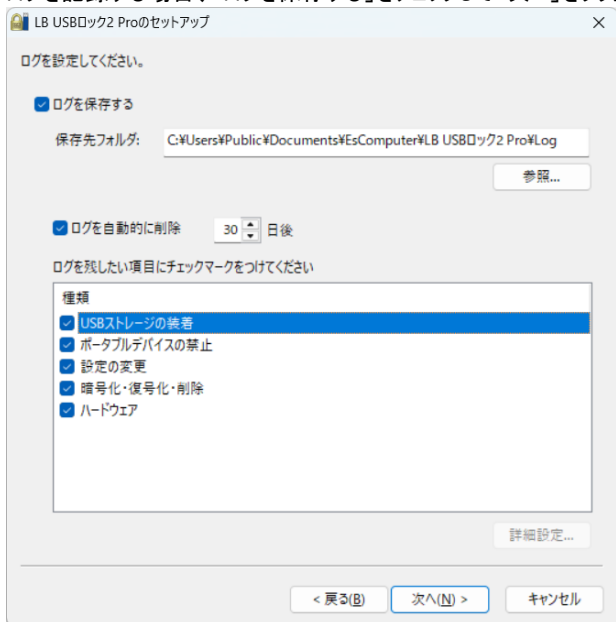
第3節 初期設定

ライセンスキーの入力後、「LB USBロック2 Proのセットアップ」ウィザードが表示されます。このウィザードからパスワード設定、ログ設定、ホワイトリストの登録等の初期設定をします。「キャンセル」した場合、すべてのUSBストレージがアクセス禁止となりますので、初期設定は必ず実行してください。

以下に説明する初期設定の内容は、設定後に変更や追加をすることができます。本節では初期設定のための簡単な設定例を説明します。各設定項目の詳細や、内容の変更/追加は[第3章]をご参照ください。

1. はじめにパスワードを設定します。パスワードは設定の変更時および、アンインストール時に必要となります。

2. ログを記録する場合、「ログを保存する」をチェックして「次へ」をクリックします。



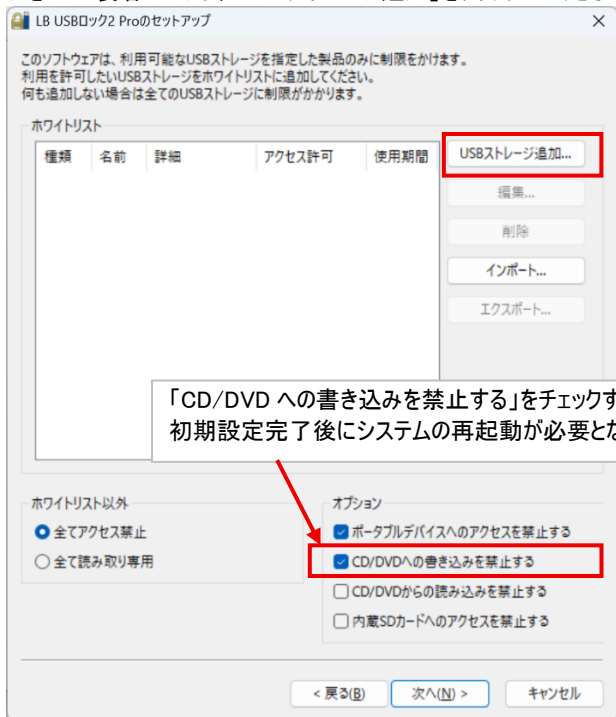
ログの保存先や記録内容、およびログの自動コピー設定(次頁)は、ここでは一旦保留して初期設定と動作確認後に設定することをお勧めします。

[第3章 第10節](P49)参照。

3. ログをファイルサーバーやNASに自動転送する場合に設定します。
[第3章 第11節](P54)参照。
通常はこのまま「次へ」をクリックしてください。



4. アクセス許可リスト(ホワイトリスト)を作成します。アクセスを許可するUSBストレージをPCに装着してから、「USBストレージ追加」をクリックしてください。



5. USBストレージの情報を設定するウィンドウが表示されます。「参照」をクリックして、リストに登録するUSBストレージを選択してください。

アクセス権を設定するストレージを選択して「OK」をクリックします。

6. 選択したストレージの情報が表示されます。内容を確認して「OK」をクリックしてください。「名前」にはユーザーのための識別用の名前を入力します。

ストレージの識別情報

名前	
名前:	ユーザーが自由に設定します。ユーザーが各ストレージの識別用に利用する名前です。
USBストレージ情報 (USBストレージの製造時に刻印された識別情報です。アプリケーションが各ストレージを識別するために利用します)	
ベンダーID:	ハードウェアベンダーのID番号
プロダクトID:	製品のID番号
シリアル番号:	製品のシリアル番号
製造者:	製造者名
プロダクト:	製品名
ドライブレター:	ドライブレターも一致させたい場合にチェックします。

アクセス許可 以下3種類のいずれかをユーザーが選択します	
すべて可能	全ての操作が可能です。
読み取り専用	USBストレージへのコピー、移動、USBストレージ内の削除はできません。
自動暗号化(暗号化とコピーは可能)	ストレージへのデータのコピーはすべて暗号化されます(通常のコピーはできません)。
使用期限	
設定する	最大で30日の使用期限を設定できます。期限を過ぎると、ホワイトリストが無効になります。

7. 設定したストレージが一覧に表示されます。
 ホワイトリストに更にストレージを追加する場合は、「USBストレージ追加」をクリックして、**3. ~ 6.**の手順を繰り返してください。



8. ホワイトリストの作成が終了したら、リスト以外のストレージのアクセスを設定します。「ホワイトリスト以外」、「オプション」について選択後、「次へ」をクリックしてください。

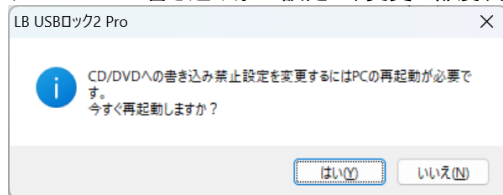
ホワイトリスト以外 <input checked="" type="radio"/> 全てアクセス禁止 <input type="radio"/> 全て読み取り専用	オプション <input checked="" type="checkbox"/> ポータブルデバイスへのアクセスを禁止する <input checked="" type="checkbox"/> CD/DVDへの書き込みを禁止する <input type="checkbox"/> CD/DVDからの読み込みを禁止する <input type="checkbox"/> 内蔵SDカードへのアクセスを禁止する
--	--

設定内容の説明

ホワイトリスト以外	
全てアクセス禁止	リスト以外のUSBストレージはアクセス禁止となります。
全て読み取り専用	リスト以外のUSBストレージは読み取り専用となります。

オプション	
ポータブルデバイスへのアクセスを禁止する	USBストレージに分類されず、エクスプローラー上で「ポータブルデバイス」として表示されるスマートフォンやデジタルカメラ、携帯音楽プレイヤー等をアクセス禁止にします。詳細は[第3章 第7節](P42)をご参照ください。
CD/DVDへの書き込みを禁止する ※	CD/DVDディスクへの書き込みを禁止します(USB接続以外のドライブも含めます)。
CD/DVDへの読み込みを禁止する	CD/DVDディスクの読み込みを禁止(アクセス不可)になります(USB接続以外のドライブも含めます)。
内蔵SDカードへのアクセスを禁止する	内蔵SDカードスロットの利用を禁止します。

- ※ チェックすると、初期設定完了時にシステムの再起動が必要となります(CD/DVDへの書き込み禁止設定は、変更の都度、再起動が必要です)。



9. 暗号化コピーを実行する際のパスワードポリシーとその他の設定を行います。設定は後から行うこともできますので、初めてご利用される場合は「次へ」をクリックして初期設定を進めてください。

暗号化コピーについては[第3章 第8節](P42)をご参照ください。

10. 設定した内容が表示されます。よろしければ、「完了」をクリックして初期設定を完了します。



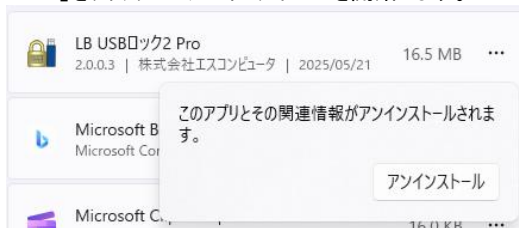
登録内容の確認について

設定名	内容
ログ	ログ記録の有無
保存先フォルダー	ログ保存先のパス
ログ自動削除	ログを自動削除するまでの期間
ホワイトリスト	ホワイトリストに登録された全てのUSBストレージの名称、アクセス権、VID、PID、シリアルナンバーを表示します。
ホワイトリスト以外	ホワイトリスト以外のUSBストレージに対するアクセス権を表示します。
オプション	ポータブルデバイスのアクセス権を表示します。
暗号化コピーのパスワードポリシー	暗号化コピー時のパスワードポリシーを表示します。
暗号化コピーのデフォルト設定	暗号化コピー時のデフォルトの動作を表示します。

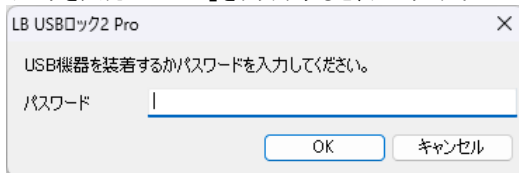
第4節 アンインストール

プログラムをアンインストールする手順について説明します。

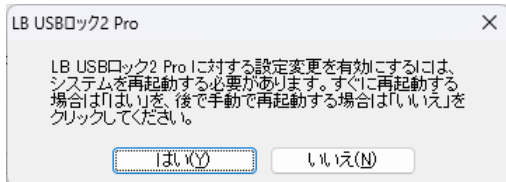
1. Windowsの「スタート」から「設定」-「アプリ」-「インストールされているアプリ一覧」より「LB USBロック2 Pro」を選択して「アンインストール」をクリックします。
2. 「はい」をクリックしてアンインストールを開始します。



3. パスワードを設定している場合は、入力を要求するウィンドウが表示されます。パスワードを入力して「OK」をクリックすると、アンインストールが開始されます。



4. アンインストールを完了するためにシステムを再起動してください。



※ プログラムをアンインストールしてもログは削除されません。ログを削除する場合は手動にて削除してください。

第5節 サイレントインストール

『LB USBロック2 Pro』は、必要に応じて、ウィザード形式(対話形式)を利用しないサイレントインストールを利用することができます。

インストール実行時に予め用意した初期設定ファイルとライセンスキーを読み込む方式を採用していますので、初期設定の手順を省略してインストール後(自動でシステムが再起動されます)すぐにプログラムが動作します。

<サイレントインストールの手順>

1. サイレントインストールに使用するファイルはCD-ROMの¥maintenanceに収録されています。フォルダーごとローカルPCにコピーしてご利用ください。
2. 同じフォルダーに以下の3つのファイルを置き「ulp2_silent.exe」を実行します。インストール終了後にシステムが自動で再起動します。

A. ulp2_silent.exe --- サイレントインストール用インストーラ
CD-ROMの¥maintenanceに収録

B. LBULInstallSetting.dat --- 設定ファイル
ホワイトリストやパスワード等の情報が保存されているファイルです。設定ファイルはインストール済の「LB USBロック2 Pro」からエクスポートします(予め別のPCにプログラムをインストールして設定ファイルをご用意ください)。エクスポートの手順は「利用ガイド 第4章」をお読みください。

C. LBULProLicense.txt --- ライセンスキーファイル
CD-ROMの¥maintenanceに収録
コピー後、メモ帳で開いて入手したライセンスキーを書き込んでください。

※ 設定ファイルを除いた状態でインストールをすることもできますが、その場合、「インストール終了」-「再起動」-「ログオン」後に初期設定ウィザードが表示されますのでユーザーが初期設定をする必要があります。

※ 設定ファイルは、インストーラと同じバージョンの「LB USBロック2 Pro」からエクスポートしたものを使用する必要があります。(エクスポート元PCの「LB USBロック2Pro」のバージョンが古い場合は予め最新バージョンにアップデートしてください。)

※ ライセンスキーや設定ファイルの読み込みは、通常のインストール時(ウィザード形式)にも利用できます。

<設定ファイルのみ更新する場合>

既に『LB USBロック2Pro』がインストールされている環境で設定ファイルのみ更新する場合(ホワイトリストを書き換える必要が生じた場合)、以下の操作を行います。

同じフォルダーに以下2点のファイルを置いて「ulp2_silent.exe」を実行します。

インストール終了後にシステムが自動で再起動されます。

A. ulp2_silent.exe	---	サイレントインストール用インストーラ
--------------------	-----	--------------------

B. LBULInstallSetting.dat	---	設定ファイル
---------------------------	-----	--------

※ ライセンスキーや設定ファイルの読み込みは、非サイレントの場合(通常のインストール時)も使用できます。

重要:

更新用の設定ファイルは、新規インストール時に使用した設定ファイルと同じPCから作成しておく必要があります(設定ファイルのインポート元PCは1台だけです)。

設定ファイルの更新は既存の設定を上書きするため、更新前の内容はすべて消去されます。インポートによるホワイトリストの更新を実行した場合、それ以前のユーティリティー上から追加したデータはクリアされます。

第3章 動作の確認と設定変更

第1節 ユーティリティの起動

設定内容の確認や変更はユーティリティ上から行います。

設定内容の確認や変更はタブを選択し画面を切り替えて行います。

設定内容を変更した後は、必ず「適用」をクリックしてください。

LB USBロック2 Pro

全般 パスワード ログ ログの自動コピー 暗号化コピー 設定のインポート バージョン情報

USBストレージをコントロールする

ホワイトリスト

種類	名前	詳細	アクセス許可	使用期間	USBストレージ追加...
USB	在宅作業用1	VID:0x348...	すべて可能	無期限	<input type="button" value="編集..."/>
USB	顧客管理データ...	VID:0x130...	暗号化コピ...	無期限	<input type="button" value="削除"/>
USB	研修生Aさん	VID:0x058...	暗号化コピ...	25日	<input type="button" value="インポート..."/>
USB	管理用SDカード...	VID:0x05E...	すべて可能	無期限	<input type="button" value="エクスポート..."/>
USB	申請書ひな型(...	VID:0x041...	読み取り専用	無期限	

ホワイトリスト以外

全てアクセス禁止
 全て読み取り専用

オプション

ポータブルデバイスへのアクセスを禁止する
 CD/DVDへの書き込みを禁止する
 CD/DVDからの読み込みを禁止する
 内蔵SDカードへのアクセスを禁止する

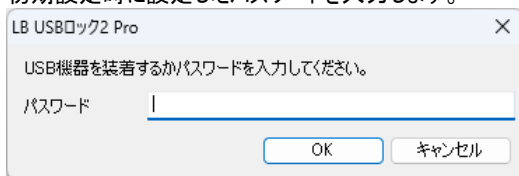
設定をエクスポート

＜ユーティリティーの起動方法＞

1. 「スタート」-「すべてのアプリ」-「LB USBロック2 Pro」-「LB USBロック2 Pro」を選択します。



2. 初期設定時に設定したパスワードを入力します。



各タブの設定内容



項目名	内容
全般	USBストレージ制御のON/OFF、ホワイトリストの登録内容を変更します。[第6節](P38)参照
パスワード	パスワードに関する設定を行います。
ログ	ログの保存先や記録内容を設定します。
ログの自動コピー	ログファイルをNASやファイルサーバーへコピーするための設定を行います。
暗号化コピー	暗号化コピー実行時のポリシーを設定/変更します。[第9節](P42)参照
設定のインポート	最新の設定情報を自動インポートするための設定をおこないます。[第4章 第5節](P61)参照
バージョン情報	製品のバージョン情報を表示します。

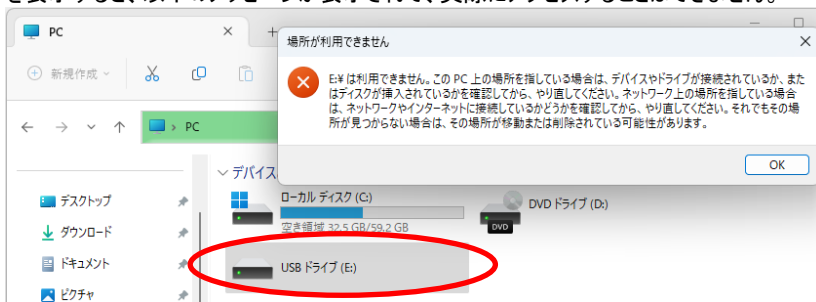
第2節 アクセスコントロールの確認

設定した内容通りにストレージにアクセスできるか確認します。

<ホワイトリストに未登録のUSBストレージ>

●ホワイトリスト以外「全てアクセス禁止」の設定をしている場合

登録していないUSBストレージをPCに接続して、ドライブにアクセスしてみます。エクスプローラー上には「USBドライブE:」のように表示されますが、ダブルクリックしてドライブの内容を表示すると、以下のメッセージが表示されて、実際にアクセスすることはできません。



●ホワイトリスト以外「全て読み取り」の設定をしている場合

ドライブ、ファイルにアクセスできますが、「切り取り」、「移動」、「削除」の操作はできません。

<ホワイトリストに登録したストレージ>

●「全て可能」の設定をしている場合

ホワイトリストに登録したUSBストレージをPCに接続して、ドライブにアクセスしてください。アクセス制御をしないドライブと同様に使用することができます。

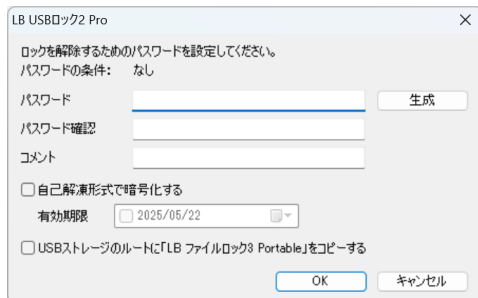
更に、USBストレージに対して、右クリックしたままのドラッグにてコピーをすると、暗号化を選択することができます。

●「自動暗号化」

対象ストレージへの操作は「暗号化コピー」と「削除」※のみとなります。通常のコピーや移動、編集はできません。

ドラッグ & ドロップの操作で対象ストレージへコピー操作をすると、データは暗号化されます。パスワードを入力して「OK」をクリックしてください。

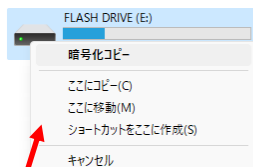
暗号化の種類については[第 4 節] (P34)をご参照ください。



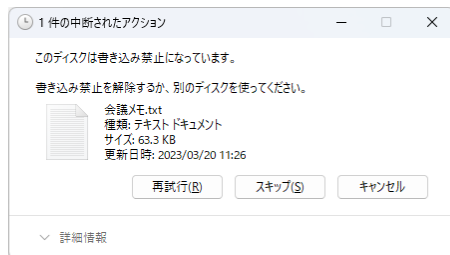
- ※ データの削除は「削除ツール」(次頁)を使用する必要があります。「ごみ箱」にデータをドラッグして削除することはできません。ファイルやフォルダーを右クリックしてプロパティを表示させても、「削除」はありません。また、コピーや移動の操作をすると、「このディスクは書き込み禁止になっています。」と表示されます。



コピーや移動の操作をすると、「書き込み禁止」と表示されます。



右クリックでプロパティを表示しても「削除」はありません。



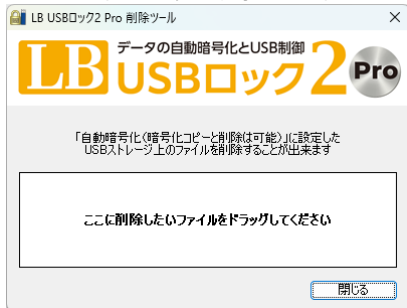
●「読み取り専用」

対象ストレージへのコピー/移動/暗号化コピー、データの編集/削除はできません。

第3節 削除ツール

ホワイトリストにて、「自動暗号化」(暗号化コピーと削除は可能)に設定されたストレージは、エクスプローラーを使用してデータを削除することができません。

データを削除する場合、専用の削除ツールを使用します。



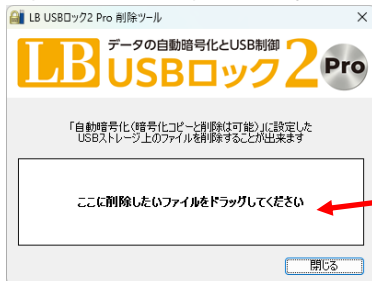
※ 削除ツールを使用して削除したデータを復元することはできません。

<使用方法>

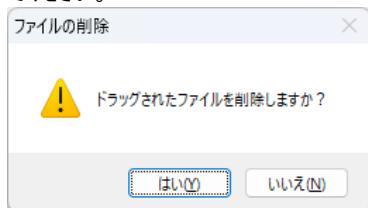
1. 「すべてのアプリ」-「LB USBロック2 Pro」-「LB USBロック2 Pro削除ツール」の順に選択して削除ツールを起動します。



2. 削除するデータを削除ツールの枠内にドラッグ&ドロップします。



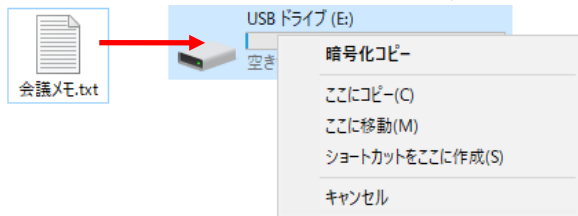
3. 削除の確認メッセージが表示されるので、削除してよろしければ、「はい」をクリックしてください。



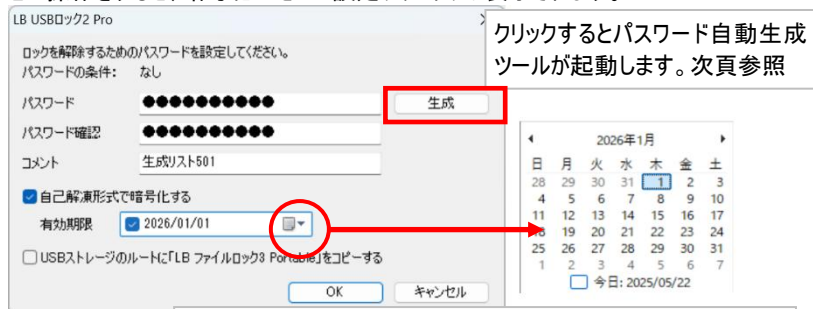
第4節 暗号化コピー

「自動暗号化」、「全て許可」に設定されたUSBストレージや、アクセス可能なドライブに対して、次の操作で暗号化コピーをすることができます。

- USBストレージにドラッグ&ドロップにてデータをコピー/移動する(自動暗号化設定)
- コピー先へドラッグして右クリックメニューからコピーを実行する



コピー操作をすると、暗号化のための設定ウィンドウが表示されます。



自己解凍形式で暗号化する場合、有効期限を設定できます。

暗号化の方法はデータのコピー/移動時に2種類の形式から選択することができます。

LB ファイルロック 2 形式 ---「自己解凍形式で暗号化する」をチェックしない場合初期設定では、『LB ファイルロック2』形式により暗号化コピーされます。暗号化されたファイルは「*.lock」ファイルとしてコピー先に保存されます。

復号化には『LB USBロック2 Pro』または『LB ファイルロック2』、『LB ファイルロック3』(Portable、Pro、フリーレシーバー※)が必要です。

※『LB ファイルロック フリーレシーバー』(復号化専用ツール)は以下のURLから入手できます。

https://lifeboat.jp/products/fl3p/fl3_receiver.php

自己解凍形式

「自己解凍形式で暗号化する」をチェックすると、exe形式のファイルが生成されます。復号はファイルを実行するだけです。

※ 自己解凍形式は4GBを超えるファイル/フォルダーには対応しません。

暗号化コピー時に表示されるウィンドウの説明

設定	内容
パスワード	暗号化解除用のパスワードを設定します。 パスワードは[第9節](P46)のパスワードポリシーに基づきます。
生成	「LB パスワードメーカー」が起動します(インストール済の場合のみクリックできます)。 使用方法は[第6章](P81)をご参照ください。
有効期限	自己解凍形式の暗号化をする場合、有効期限を設定することができます。プルダウンからカレンダーを表示させ、年月日を指定します。 ※ 暗号化後に有効期限を変更することはできません。また、期限後に復号化することはできません。
USBストレージのルートにファイルロック3 Portableをコピーする	暗号化コピーの実行時に『LB ファイルロック3 Portable』をストレージのルートにコピーします。『LB ファイルロック3 Portable』の使用方法は、[第5章](P65)をご参照ください。

第5節 復号化

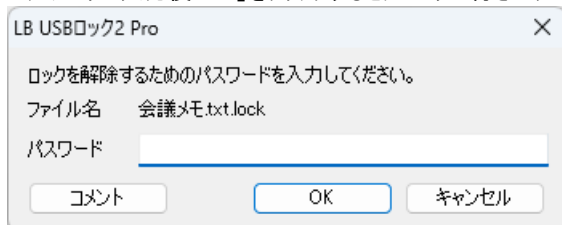
暗号化されたデータは次の方法で復号化します。

LB ファイルロック 2 形式

<『LB USBロック2 Pro』がインストールされているPC>

暗号化ファイル(*.lock)をUSBストレージからPC上(デスクトップやドキュメントフォルダー等の復号ファイルを出力したいパス)にドラッグ&ドロップまたはダブルクリックすると、パスワード入力ウィンドウが表示されます。

パスワードの入力後「OK」をクリックするとフォルダー付きでデータが復号化されます。



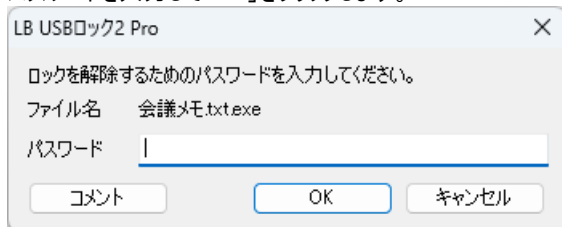
※ 暗号化ファイル(*.lock)をダブルクリックした場合、復号データの出力先はデスクトップとなります。

<『LB USBロック2 Pro』がインストールされていないPC>

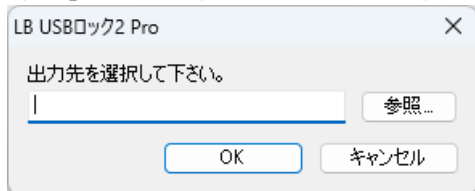
『LB ファイルロック3 Portable』や『LB ファイルロック3 フリーレシーバー』を使用して復号化します。『LB ファイルロック3 Portable』は、暗号化コピーをする際にUSBストレージへコピーすることができます。コピー方法と使用方法については、[4節](P34)、[第5章](P65)をご参照ください。

自己解凍形式

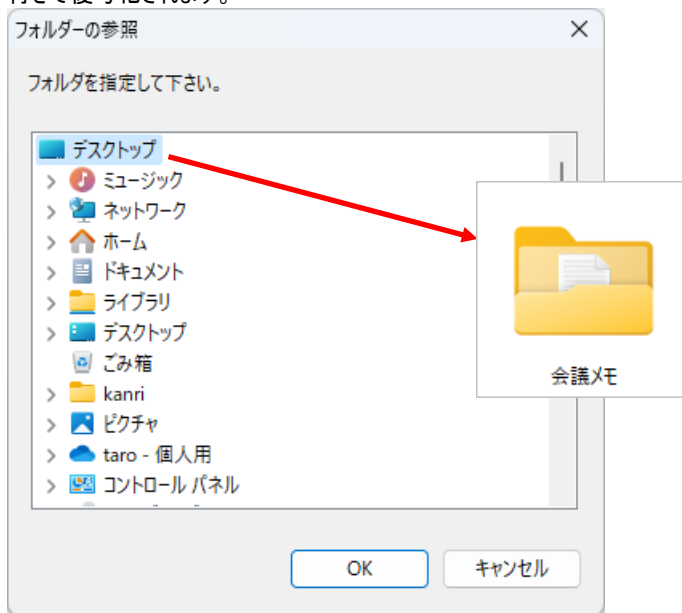
暗号化ファイル(exe)を実行(ダブルクリック)するとパスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力して「OK」をクリックします。



「参照」をクリックして復号ファイルの出力先を指定します。



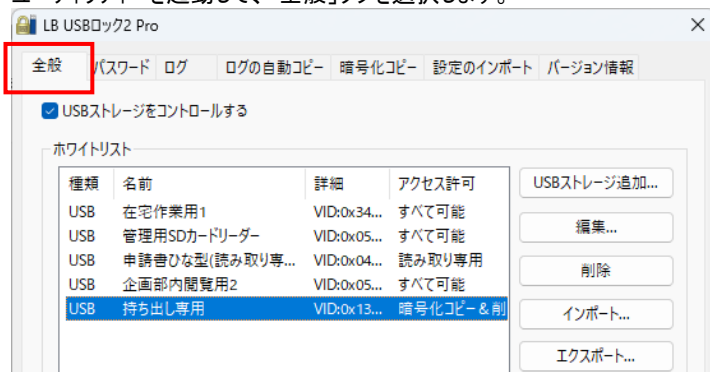
復号化したファイルを出力するパスを選択して「OK」をクリックすると、指定先にフォルダー付きで復号化されます。



第6節 ホワイトリストの編集

ホワイトリストの登録内容はユーティリティを起動して編集することができます。

1. ユーティリティを起動して、「全般」タブを選択します。



「全般」タブの説明

表示名	説明
USB ストレージ追加...	新しい USB ストレージをホワイトリストに追加します。追加の手順は、初期設定時のストレージの登録と同様です。
編集...	リストに登録されているストレージのアクセス権等を変更します。
削除	選択したストレージをホワイトリストから削除します。
インポート、エクスポート	ホワイトリストを CSV ファイルへエクスポート、CSV 形式のホワイトリストをインポートします(P63 参照)。

「ホワイトリスト以外」の制御と「オプション」については[第7節](P41)をご参照ください。

＜ホワイトリストの編集＞

「USBストレージ情報」の各項目のチェック/チェックオフで識別に利用するものを選択したり、「アクセス許可」からアクセス権を変更したりします。

「USBストレージ情報」はPCに接続されたUSBデバイスから自動的に読み取ることができますが、手動で入力したり、部分的に編集したりすることもできます。

●「ベンダーID」、「プロダクトID」、「シリアル番号」の3点をチェック

この3点がチェックされていれば、個別のストレージを識別できます。同型式のストレージが多数存在する環境でも、個別のストレージごとに、異なるアクセス権を設定できます。

ベンダーID、プロダクトIDの2点のみ刻印されているストレージデバイスも存在します。

- 「ベンダーID」、「プロダクトID」をチェックして、シリアル番号をチェックオフ
同型番のストレージ多数を一括導入して同じアクセス権を付与する場合に便利です。

USBストレージ情報

<input checked="" type="checkbox"/> ベンダーID:	0x 1307
<input checked="" type="checkbox"/> プロダクトID:	0x 0163
<input type="checkbox"/> シリアル番号:	00000000000525
<input type="checkbox"/> 製造者:	USBest Technology
<input type="checkbox"/> プロダクト:	USB Mass Storage Device

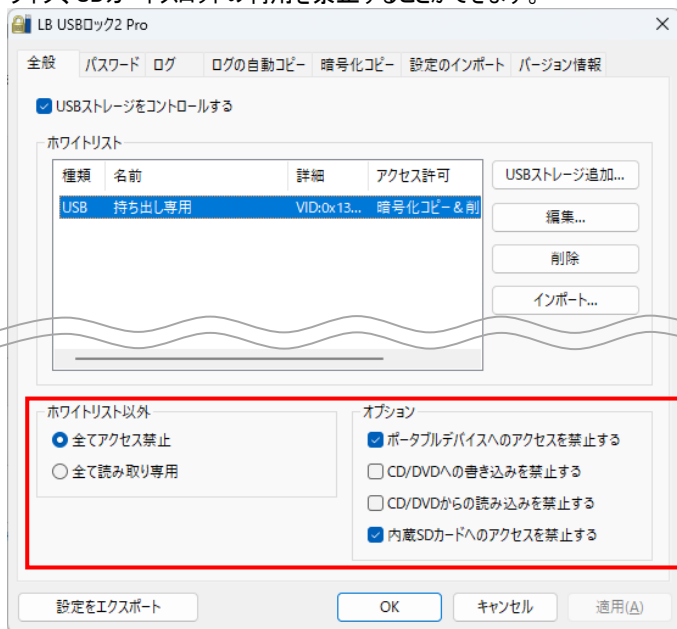
- 「製造者」、「プロダクト」
チェックは通常不要です。チェックするホワイトリスト上に表示されるので、機器の識別用途に利用すると便利です。

USBストレージ情報

<input checked="" type="checkbox"/> ベンダーID:	0x 1307
<input checked="" type="checkbox"/> プロダクトID:	0x 0163
<input checked="" type="checkbox"/> シリアル番号:	00000000000525
<input checked="" type="checkbox"/> 製造者:	USBest Technology
<input checked="" type="checkbox"/> プロダクト:	USB Mass Storage Device

第7節 ホワイトリスト以外のデバイスの制御

ホワイトリスト以外の設定から、USBストレージ以外にポータブルデバイスと光学ディスクドライブ、SDカードスロットの利用を禁止することができます。



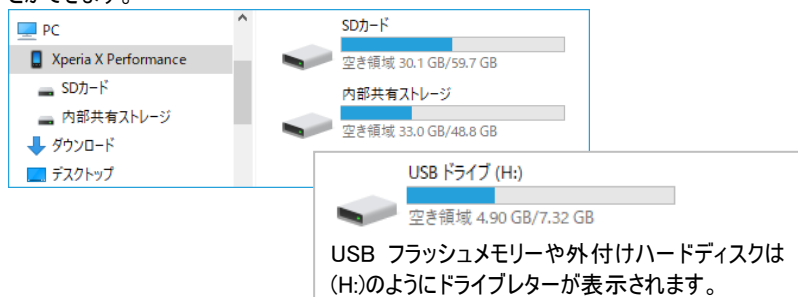
ホワイトリスト以外とオプション

表示名	内容
ホワイトリスト以外	
全てアクセス禁止	リストに未登録のストレージにアクセスできなくなります。
全て読み取り専用	リストに未登録のストレージは「読み取り専用」となります。
オプション	
ポータブルデバイスへのアクセスを禁止する	USB接続のポータブルデバイスにアクセスできなくなります。(詳細は次項を参照)
CD/DVDへの書き込みを禁止する	CD/DVDディスクへの書き込みを禁止します。この設定はUSB接続以外の光学ドライブに対しても有効です。

CD/DVDからの読み込みを禁止する	チェックするとCD/DVDディスクの読み込みを禁止(アクセス不可)になります。
内蔵SDカードへのアクセスを禁止する	内蔵SDカードスロットの利用を禁止します。 (詳細は本頁下部を参照)

ポータブルデバイスについて

- ※ MTP(メディア転送プロトコル)、PTP(画像転送プロトコル)による接続を禁止します。スマートフォンをPCに接続してデータの転送を行う場合、主にMTPを利用します。MTPを利用している場合、エクスプローラーからスマートフォン内部のデータを確認することはできませんが、下図のように、「ドライブレター」(F:、G:等)が表示されません。このようなデバイスをホワイトリストにて制御することはできませんが、「ポータブルデバイスへのアクセスを禁止する」をチェックしてアクセス不可に設定することができます。



- ※ 「ホワイトリスト以外」と「オプション」の禁止設定をしても、マウスやキーボード等入力デバイスの利用は禁止されません。

内蔵 SD カードへのアクセス禁止について

PC 内蔵の SD カードスロットは、機種により PC 内部での接続方式が異なり、「内蔵 SD カードへのアクセスを禁止する」で禁止できないものが存在します。

以下の機器は「内蔵 SD カードへのアクセスを禁止する」の対象外になりますが、ホワイトリストに追加してアクセス制御することができます。

- SD カードスロットが PC 内部で USB 接続されているもの
- USB 接続の外付け SD カードリーダー

SD カードスロットの PC 内部での接続方式は、下記の＜接続方式の確認方法＞で確認することができます。

<接続方式の確認方法>

下記の URL から USBCheck ツールをダウンロードします。

https://www.lifeboat.jp/products/usb/usb_check.php

このツールはインストール不要で利用できます。ダウンロードしたファイル「USBChek.exe」を実行すると「USBCheck」が起動します。

ツールの**起動後※**、SD カードスロットに SD カードをセットしてください。下図のようにハードウェア一覧に表示されたら、そのカードスロットは USB 接続です。利用の可否はホワイトリストへの登録で制御できます。一覧に表示されない場合、USB 接続でないため「内蔵 SD カードへのアクセスを禁止する」をチェックして利用を禁止できます。

USB HardLockerの鍵に使用したいデバイスをコンピュータに接続してください。
接続したデバイスがハードウェア一覧に表示されれば鍵として使用することができます。

ハードウェア一覧

- Realtek USB 2.0 Card Reader
- USB Composite Device
- Qualcomm QCA61x4A Bluetooth
- Goodix fingerprint

詳細情報

- Realtek USB 2.0 Card Reader
 - SD Card
 - ボリューム - (D:)
 - D:

ベンダーID: 0x0BDA
プロダクトID: 0x0177
シリアル番号: 2012111276100000

※ ノート PC では、多数の機器(ネットワークアダプタ、指紋リーダー、Bluetooth アダプタ他)が内部で USB 接続されている可能性があります。これら機器と間違えないために SD カードはツールの起動後にスロットに装着してください。

終了(Q)

表示されているシリアル番号は「カードリーダー」のもので、これをホワイトリストに追加することで USB SD カードリーダーが利用できます。(SD カード自体には USB メモリー同様のシリアル番号がないため個別の SD カードごとにアクセス制御することはできません。)

第8節 パスワード

『LB USBロック2 Pro』を不正な設定変更やアンインストールから保護するためのパスワードや認証用USBキーを設定することができます。

「ユーティリティ」から「パスワード」タブを選択します。



「パスワード」タブの設定内容

パスワード	
パスワードを設定する	パスワードの文字数を指定します(1文字以上)。
USB機器	
USB機器を設定する	指定するUSB機器を認証に使用します。USBストレージ以外のUSB機器も登録できます。※1
オプション	
USB機器とパスワードのどちらか片方だけでロックを解除できる(合い鍵)	
	通常はパスワードが不要なため便利です。
ロックを解除するために、USBとパスワードの両方が必要(2要素認証)	
	どちらか一方を紛失すると設定変更やアンインストールが不可となるため、設定には注意が必要です。
緊急用パスワードを設定する	2要素認証選択時のみ設定することができます。※2

※1 設定可能な機器は、以下のページからチェック用ツールを利用してご確認ください。

https://www.lifeboat.jp/products/usb/usb_keylist.php

鍵専用デバイス

<https://www.lifeboat.jp/products/key/>

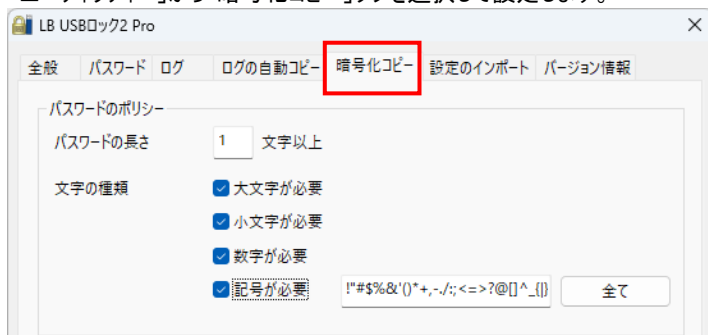
※2 設定するとセキュリティの強度が低下するため、緊急パスワードは複雑なものを設定することをお勧めします。

第9節 暗号化コピーオプション

暗号化コピー時のパスワードポリシーと暗号化の形式を指定しておくことができます。

<パスワードポリシー>

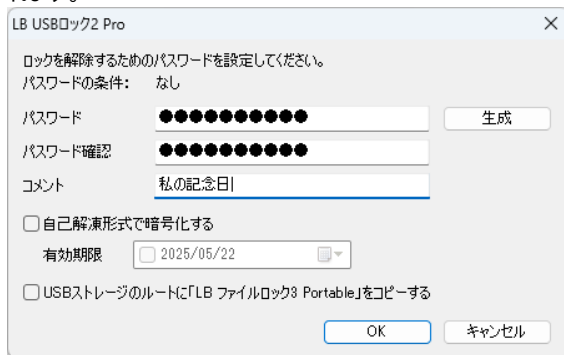
「ユーティリティ」から「暗号化コピー」タブを選択して設定します。



パスワードポリシーで指定できる内容

表示名	内容
パスワードの長さ	パスワードの文字数を指定します(1文字以上)。
文字の種類	パスワードに必須な文字の種類(半角のみ)を指定できます。
大文字	英大文字
小文字	英小文字
数字	数字
記号	以下の記号を指定可能です。使用させたくないものはリストから削除してください。 !"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[^_`{ }~
全て	クリックすると、記号リストが初期状態に復旧されます。

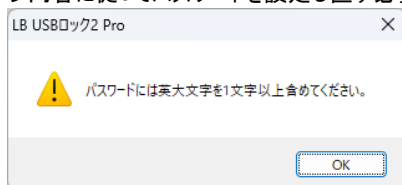
暗号化コピーの実行時に、予め設定されたポリシーに基づいたパスワードの設定を求められます。



The dialog box is titled "LB USBロック2 Pro" and contains the following elements:

- Text: ロックを解除するためのパスワードを設定してください。
- Text: パスワードの条件: なし
- Field: パスワード (masked with 12 black dots) with a "生成" button to its right.
- Field: パスワード確認 (masked with 12 black dots).
- Field: コメント (containing "私の記念日").
- Checkbox: 自己解凍形式で暗号化する
- Field: 有効期限 (containing "2025/05/22" and a calendar icon).
- Checkbox: USBストレージのルートに「LB ファイルロック3 Portable」をコピーする
- Buttons: "OK" and "キャンセル".

ポリシーに合致しないパスワードを設定すると、暗号化コピーを実行できません。メッセージ内容に従ってパスワードを設定し直す必要があります。



The dialog box is titled "LB USBロック2 Pro" and contains the following elements:

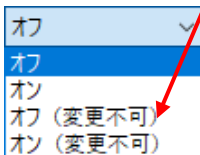
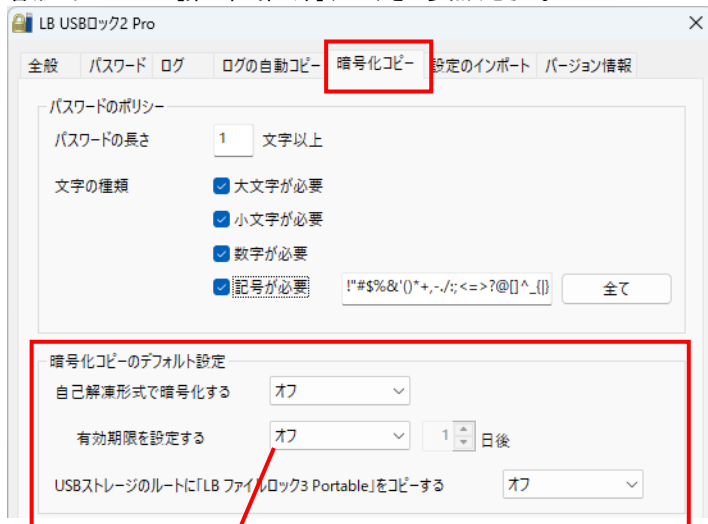
- Warning icon: A yellow triangle with a black exclamation mark.
- Text: パスワードには英大文字を1文字以上含めてください。
- Button: "OK".

<暗号化コピーのデフォルト設定>

暗号化コピー時の暗号化データ形式を予め指定しておくことができます。

指定できる内容は「自己解凍(exe)形式／Lock形式」、「有効期限の設定」、「LB ファイルロック3 Portableのコピー」の3種類です。

各形式については[第3章 第4節](P34)をご参照ください。



暗号化コピーのデフォルト設定はプルダウンリストから4通りの設定を選択できます。

「デフォルト設定」なので、暗号化コピーを実行する際にユーザーがコピー方式を選択できますが、(変更不可)を選択すると、ここで指定した設定が強制されます。

第10節 ログの収集

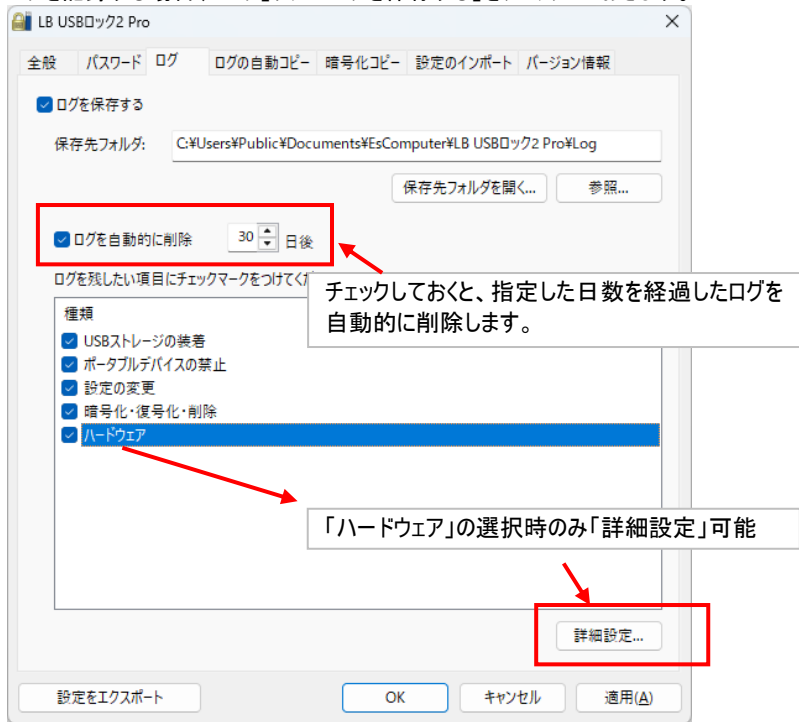
USBストレージにデータを暗号化コピーする際、およびストレージから復号化する際に、ログを記録することができます（暗号化ファイルをローカルPCにコピーした後で復号化した場合はログに記録されません）。

※ ログはcsv形式で保存され、1日単位で新しいファイルが生成されます。

※ ログはWindowsのユーザーごとに生成されます。

<設定方法>

ログを記録する場合、「ログ」タブ-「ログを保存する」をチェックしておきます。



ログの保存先は初期設定では、「C:\Users\Public\Documents\EsComputer\LB USBロック2 Pro\Log」に指定されています（システムドライブがC:の場合）。

変更する場合は、直接パスを入力するか、「参照」をクリックして保存先を指定することができます。

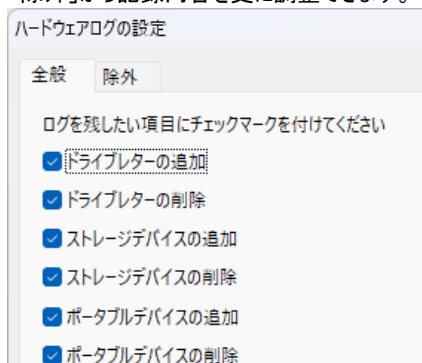
ログの種類

項目	内容
USBストレージの装着	USBストレージが装着時に記録されます。
ポータブルデバイスの禁止	ポータブルデバイスの禁止時にスマートフォン、デジカメ等が装着された時に記録されます。
設定の変更	設定変更が行われた時に記録されます。
暗号化・復号化・削除	暗号化コピー／復号化コピー、データの削除が行われた時に記録されます。
ハードウェア	ハードウェアが追加/削除された時に記録されます。 「詳細」をクリックして不要な内容(例えばドライブレター)の記録を除外することができます。 下図参照

ハードウェアの詳細設定

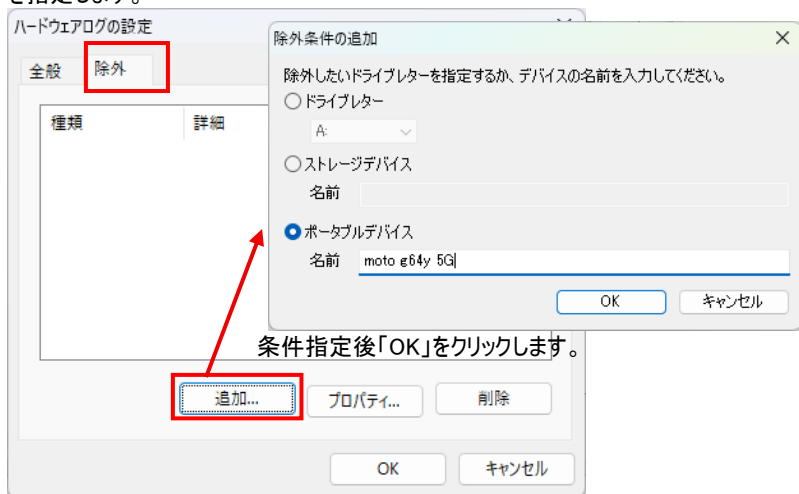
記録不要な項目はチェックをはずしてください。

「除外」から記録内容を更に調整できます。



除外設定

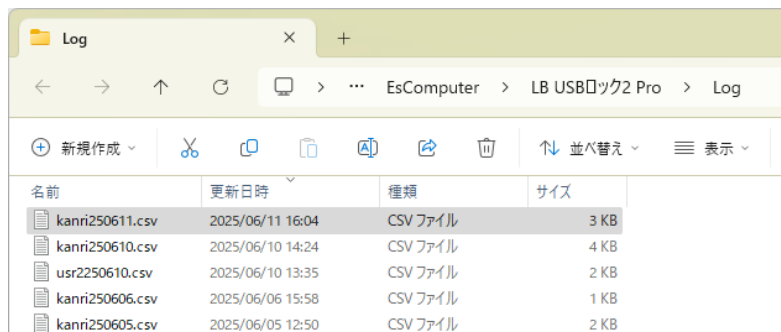
「追加」をクリックして除外条件(ドライブレター、ストレージデバイス、ポータブルデバイス)を指定します。



下図のように除外条件が追加されます。



「保存先フォルダーを開く」をクリックすると、ログの一覧を確認することができます。



ログはCSV形式にて保存されるため、MS Excelやメモ帳を利用して開くことができます。下図の例はMS Excelを使用してファイルを開いています。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
1	コンピュー	IPアドレ	スログイン	年月日	時刻	ログ種類	バス1	バス2	ログ種別詳細	タイトル	パラメータ	VID2	PID2	SerialNo2		
2	Rascal	192.168.13	kanri	2025/6/5	12:48:51	ハードウェアの追加と削除	ゲータブル	デバイスの追加	WPD FileSystem Volume Driver							
3	Rascal	192.168.13	kanri	2025/6/5	12:48:51	ハードウェアの追加と削除	ストレージ	デバイスの追加	USB 大容量記憶装置	0x411	0x1F2	0916100000F201122300002451				
4	Rascal	192.168.13	kanri	2025/6/5	12:48:51	ハードウェアの追加と削除	ドライブレター	の追加	F:							
5	Rascal	192.168.13	kanri	2025/6/5	12:48:52	ハードウェアの追加と削除	ゲータブル	デバイスの追加	CCCOMA_X64F							
6	Rascal	192.168.13	kanri	2025/6/5	12:48:52	ハードウェアの追加と削除	ゲータブル	デバイスの削除	WPD FileSystem Volume Driver							
7	Rascal	192.168.13	kanri	2025/6/5	12:49:19	ハードウェアの追加と削除	ドライブレター	の削除	F:							
8	Rascal	192.168.13	kanri	2025/6/5	12:49:19	ハードウェアの追加と削除	ゲータブル	デバイスの削除	CCCOMA_X64F							
9	Rascal	192.168.13	kanri	2025/6/5	12:49:19	ハードウェアの追加と削除	ストレージ	デバイスの削除	USB 大容量記憶装置	0x411	0x1F2	0916100000F201122300002451				

例: コンピュータ名,IPアドレス,ログイン名,年月日,時刻,ログ種類,パス1,パス2,ログ種類詳細,タイトル,パラメータ,VID2,PID2,SerialNo2

Rascal,192.168.137.1,anasu,2025/06/05,12:48:51,ハードウェアの追加と削除,,,ストレージデバイスの追加,USB 大容量記憶装置
,,0x411,0x1F2,0916100000F201122300000001

ログの内容

項目	内容
コンピュータ名	イベントが発生したコンピュータ名
IPアドレス	イベントが発生したコンピュータのIPアドレス
ログイン名	ログイン中のユーザー名
年月日	イベントが発生した日時
時刻	イベントが発生した時刻
ログ種類	ログの種類(USBストレージの装着、ポータブルデバイスの禁止、設定の変更、暗号化・復号化・削除、ハードウェア)
パス1	暗号化コピー／復号化／削除するデータのパス
パス2	暗号化コピー時のコピー先、復号時の復号先のパス
ログ種類詳細	ハードウェアの追加と削除の詳細
タイトル	デバイス名、ドライブ名
パラメータ	デバイス名(ポータブルデバイスの禁止)
VID2	ベンダーID
PID2	プロダクトID
シリアルナンバー2	シリアルナンバー

第11節 ログの自動コピー

ログを定期的に指定先へコピーします（コピー先はNAS、ファイルサーバー、外付けドライブ等を指定可能）。



コピーが実行される時刻に、PC の電源がOFF の場合やコピー先のネットワークドライブに接続できない等の理由でコピーが実行できない場合、コピーが可能となった時点でコピーが実行されます。

設定内容

項目	内容
ログファイルを別のフォルダにコピーする	コピーを行う場合にチェックします。
コピー先フォルダを開く	コピー先に指定したフォルダを表示します。
参照	エクスプローラーを開いてコピー先を選択します。
コピーが完了したら元ログファイルを削除する	暗号化コピー／復号化コピー、データの削除が行われた時に記録されます。
ログファイルのコピーを実行する頻度	右のプルダウンリストからコピーの頻度を選択します。 (コピーを実行する間隔は15分～24時間までの6通りから選択します。)

第4章 設定のエキスポート/インポート

『LB USBロック2 Pro』には、設定情報を設定ファイルとしてエキスポートする機能、およびエキスポートされたファイルをインストール時にインポートする機能があります。この機能は、同一の設定を多数のPCに導入する場合に便利です。

<注意事項>

■エキスポート/インポートできる内容

パスワード、ログ設定(ログ自体はエキスポートされません)、ホワイトリスト、ホワイトリスト以外のアクセス権、オプション(ポータブルデバイスへのアクセス)

■エキスポートされたファイルは暗号化されています。メモ帳等で内容を読み取ることはできません。

■通常のインストール(インポートせずにインストール)をしたPCに対して、設定の「追加・変更」内容をインポートすることはできません。

■インポートによるインストールをしたPCに、インポート元で変更した内容を再度インポートすることができます。

■インポートファイルを使用してインストールしたPCに対して、エキスポート元の異なる設定情報をインポートすることはできません。

第1節 作業前の準備

設定のインポートは、エキスポートファイルを読み込んで、新規インストールをすることにより、実行します。インポート時には、ライセンスキーおよび、インストーラ「LB USBロック2 Pro.exe」が必要となります。インストーラを予めローカルPC上にコピーしておいてください。

インストーラ「LB USBロック2 Pro.exe」の保存先

CD-ROM(パッケージ版、メディアキット)

D:¥install¥LB USBロック2 Pro.exe (CDドライブがD:の場合)

ダウンロード版

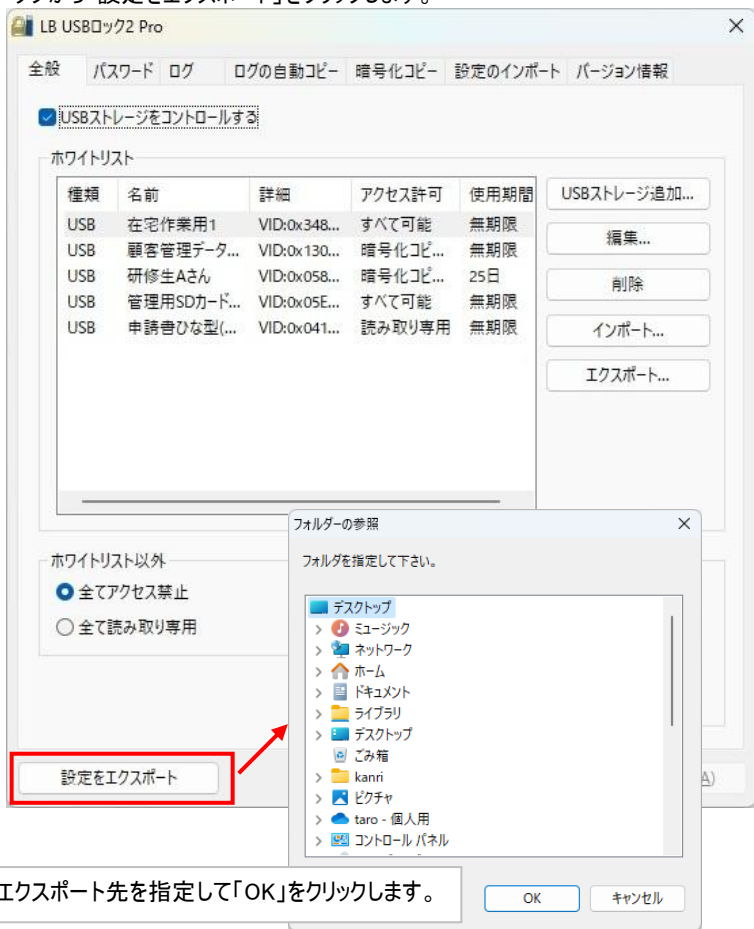
ダウンロードファイル「ulp2_00.exe」を実行後、展開されたフォルダー¥ulp2_tempにインストーラがコピーされます。

¥ulp2_temp¥install¥LB USBロック2 Pro.exe

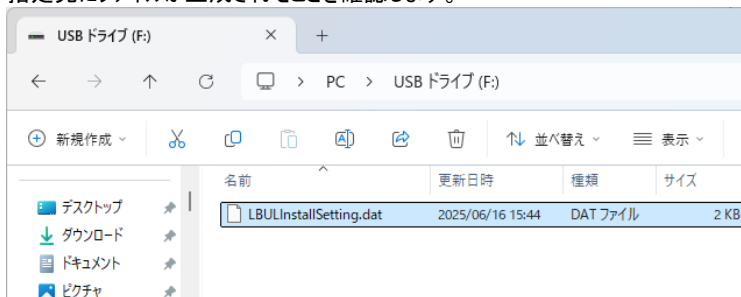
第2節 設定のエクスポート

<エクスポートの手順>

1. 「スタート」から「LB USBロック2 Pro」を選択してユーティリティを起動後、「全般」タブから「設定をエクスポート」をクリックします。



2. 指定先にファイルが生成されたことを確認します。



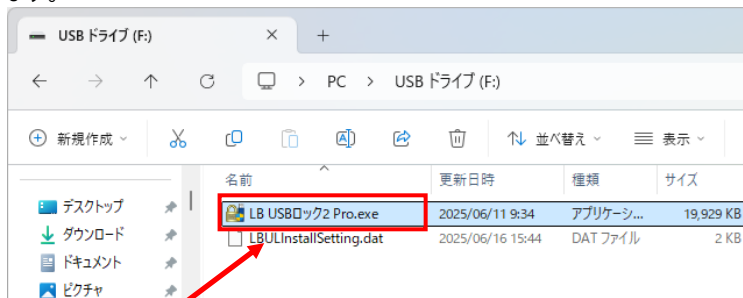
設定情報ファイル「LBULInstallSetting.dat」が指定先に出力されます。
ファイルは暗号化されており、メモ帳等で内容を読み取ることはできません。

第3節 設定のインポート

設定のインポートは、新規にプログラムをインストールする際に利用できます。
インストール済みの環境へのインポートはエクスポート元のPCが同じ場合に限られます。

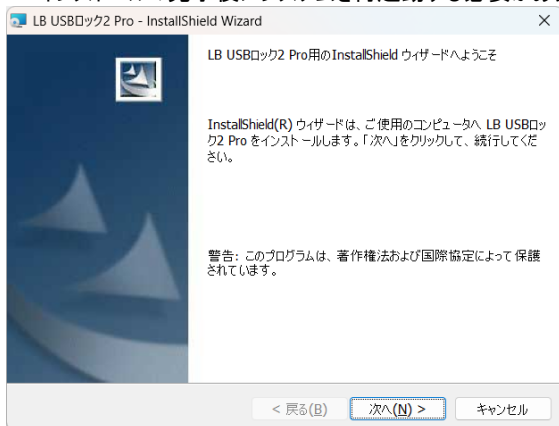
<インポートの手順>

1. エクスポートしたファイル「LBULInstallSetting.dat」と『LB USBロック2 Pro』のインストーラ「LB USBロック2 Pro.exe」を「**同じフォルダー**」に置いて、インストーラを起動します。

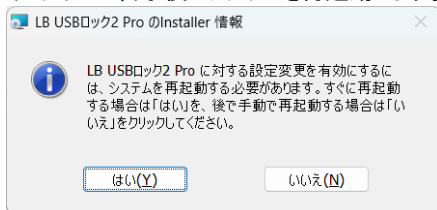


「LB USBロック2 Pro.exe」を実行します。

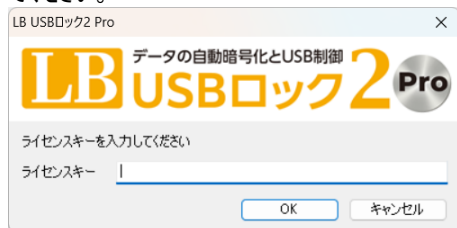
2. ウィザードが起動するので、「次へ」をクリックしてインストールを進めます。
※ インストール作業自体は、通常のインストールと同様の手順にて実行します。
設定ファイル読み込みに関するメッセージが表示されることはありません。
インストールの完了後にシステムを再起動する必要があります。



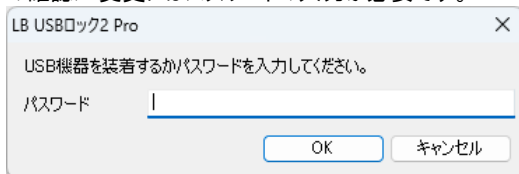
3. インストール終了後にシステムを再起動します。



4. 再起動後、ライセンスキーの入力画面が表示されます。「ライセンスキー」を入力してください。



5. 「スタート」から「LB USBロック2 Pro」を選択して、設定内容がインポートされていることを確認します。エクスポート元のパスワード設定が反映されていますので、設定の確認／変更にはパスワードの入力が必要です。



6. 各タブの内容をチェックして、インポートが正常にされていることを確認します。

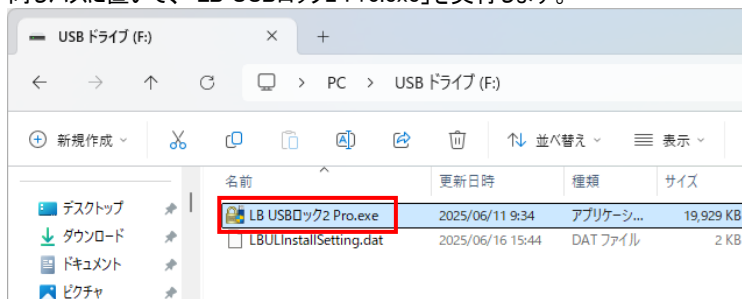


第4節 追加/変更した設定のインポート

『LB USBロック2 Pro』がインストール済の環境に、変更/追加されたホワイトリストを読み込む場合のインポート方法を説明します。

※ NAS等のネットワーク共有フォルダーにアクセス可能な場合は、次節の「設定の自動インポート」を利用すると便利です。

インポートの手順は、インポートによる新規のインストール[第1節]と同様に、エクスポートファイル「LBULInstallSetting.dat」をプログラムのインストーラ「LB USBロック2 Pro.exe」と同じパスに置いて、「LB USBロック2 Pro.exe」を実行します。



※ 実際の操作は上書きインストールとなります。上書きインストール前の設定は残らずに、新たにインポートする設定に置き換えられます。

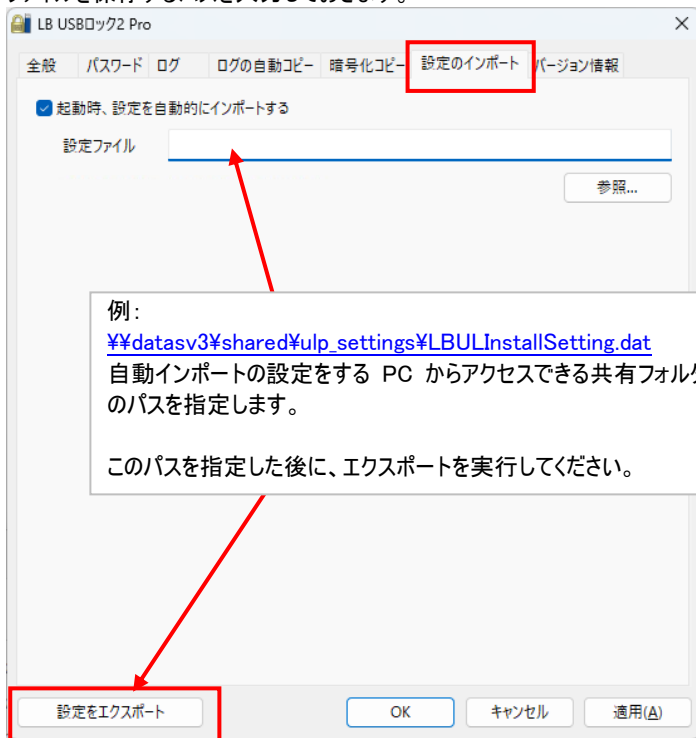
第5節 設定の自動インポート

PCの起動時に、更新された設定ファイル(ホワイトリスト)を検知すると自動的に読み込んで自身の設定情報を更新する機能です。

複数の『LB USBロック2 Pro』を運用する環境で、ホワイトリストの更新を全てのPCに自動的に適用させることができます。

<自動インポートの準備>

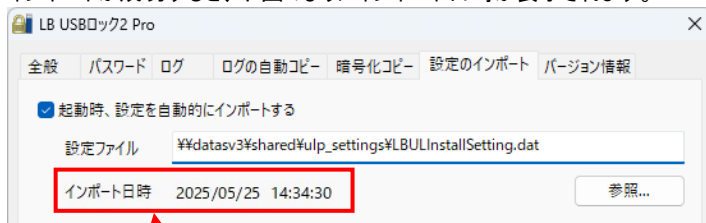
1. マスターとなる『LB USBロック2 Pro』を用意して、ホワイトリスト等の設定完了後に設定ファイルをエキスポートします。
エキスポートを実行する前に、「設定のインポート」を開いて、エキスポートした設定ファイルを保存するパスを入力しておきます。



2. エクスポートしたファイル「LBULInstallSetting.dat」をネットワーク共有フォルダー等※に置きます。 ※ 1. で入力しておいたパス
3. 自動インポートを利用するPCに、1. でエクスポートしたファイルを読み込ませて『LB USBロック2 Pro』を新規にインストールします。
設定ファイルのインポートによるインストールは[第4章](P55)をご参照ください。
※ 自動インポートは、インストール時に利用した設定ファイルの作成元PC以外のPCからエクスポートされたファイルを読み込むことはできません。

<自動インポートのテスト>

1. 前ページの準備操作で利用したマスター環境で、ホワイトリストを変更して新たに設定ファイル「LBULInstallSetting.dat」をエクスポートします。
2. エクスポートしたファイルを
¥¥datasv3¥shared¥ulp_settings¥LBULInstallSetting.dat に上書きします
(前ページ例の自動インポート用ファイルのパス)。
3. インポートしたいPCを起動(再起動)します。
4. インポートが成功すると、下図のようにインポート日時が表示されます。



設定ファイルのパスをスキャンして、左記の日時よりも新しい設定ファイルを認識した場合に自動インポートが実行されます。

- ※ 共有フォルダーへのアクセス権の問題等で自動インポートが失敗しても、エラーメッセージは表示されません。インポート日時をチェックして自動インポートの成否をご判断ください。

第6節 ホワイトリストの CSV エクスポート/インポート

ホワイトリストのCSVエクスポート/インポートに対応しました。複数PCへの導入時、配布用のホワイトリストを作成、編集する場合に便利です。

- ※ 扱えるのはホワイトリストに含まれるストレージの情報だけです。CSVを「サイレントインストール」「自動インポート」に利用することはできません。編集したCSVを「サイレントインストール」「自動インポート」に利用する場合はCSVをアプリに読み込んだ後、左下部の「設定をエキスポート」を利用して専用の設定ファイルをご用意ください。
- ※ 文字コードはSJISのみ対応します。
- ※ インポートを実行すると、既存のリストが破棄されます。現在のリストに機器を追加する場合、はじめにエキスポートを実行してCSVに機器情報を追加後、CSVインポートを実行します。

自動インポート、サイレントインストールで直接読み込む場合は、こちらをご利用ください。

クリックするとエクスプローラーが起動します。CSV ファイルを指定してください。

インポートの実行後は「OK」をクリックしてユーティリティーを閉じると新しいホワイトリストが有効になります。

<ホワイトリストの仕様>

ホワイトリストの編集／作成時は、以下の仕様を参考にしてください。

Excelにて開いたホワイトリスト

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L			
名前	アクセスレベル	使用期間	usb check vendorId	usb vendorId	usb check productId	usb productId	usb check serialNumber	usb serialNumber	usb check manufacturer	usb manufacturer	usb check product	usb product	usb check drive letter	usb drive letter
在宅作業用	0		1 0x3485		1 0xA0A2		1 AA800000		0 USB 2.0		0		0	
管理用SD:	1	2025/7/10	1 0x05E3		1 0x0749		1 1538		0 Generic		0		0	
企画部内課	0		1 0x054C		1 0x05BB		1 EBA2607F		0 Sony		0		0	
持ち出し課	2		1 0x1307		1 0x0163		1 525		0 USBBest Te		0		0	

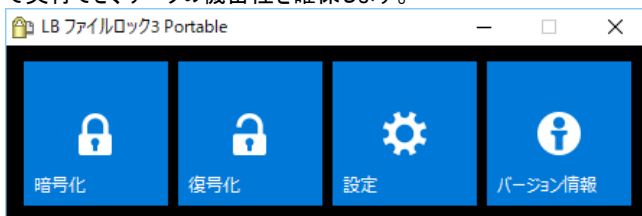
列	内容	説明
A	名前	“1”で読み取り専用。“0”で設定なし。
B	アクセスレベル	“0”ですべて許可。“1”で読取専用。“2”で自動暗号化。
C	使用期間	入力例: 2025/07/10
D	usb check vendorId	“1”で有効。“0”で無効。
E	usb vendorId	16進数を表現できる文字で4桁まで。 先頭が“0x”なら無視。
F	usb check productId	“1”で有効。“0”で無効。
G	usb productId	16進数を表現できる文字で4桁まで。 先頭が“0x”なら無視。
H	usb check serialNumber	“1”で有効。“0”で無効。
I	usb serialNumber	シリアルナンバー
J	usb check manufacturer	“1”で有効。“0”で無効。
K	usb manufacturer	製造者
L	usb check product	“1”で有効。“0”で無効。
M	usb product	プロダクト名
N	usb check drive letter	“1”で有効。“0”で無効。
O	usb drive letter	ドライブレター

第5章 LB ファイルロック3 Portable

データを暗号化コピーする際にUSBストレージへ添付することができる『LB ファイルロック3 Portable』について説明します。

第1節 LB ファイルロック3 Portableの概要

『LB ファイルロック3 Portable』はインストールが不要で、しかも管理者権限等も一切必要がないファイル、フォルダーの暗号化ツールです。PC上での作業はもちろん、外部メディアに入れて持ち運ぶことができます。暗号化、復号化はドラッグ&ドロップの簡単な操作で実行でき、データの機密性を確保します。



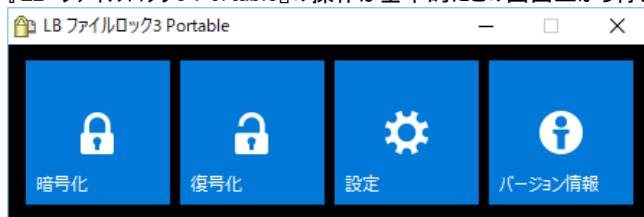
第2節 注意事項

- 『LB ファイルロック3 Portable』で使用できるファイル名またはパスの長さは、各Windowsの仕様に依存します。稼働環境により異なりますが、ファイル名、パス長(フルパス)で指定できる上限は256バイトまでとなります。
もし、パス長の制限により正常に処理が行えない場合は、ファイル名や暗号先/復号先を変更してから再度実行してください。
- パスワード、認証用ファイルを紛失した場合の暗号化データの復旧に関するお問い合わせは一切受け付けることができません。管理には十分にご注意ください。
- 『LB ファイルロック3 Portable』は『LB USBロック2 Pro』を購入されたユーザー様のみ使用することができます。本プログラムがコピーされたUSBストレージの貸し出しや配布等をする場合は別途ライセンスを購入する必要があります。




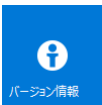
第3節 ユーティリティー

ファイルを実行すると、以下のユーティリティーが起動します。

『LB ファイルロック3 Portable』の操作は基本的にこの画面上から行います。



アイコンメニューの各ボタン(詳細は次のページ以降をご参照ください)

アイコン	説明
	ファイルやフォルダーをドラッグ&ドロップして暗号化を実行します。クリックすると暗号化ウィザードが起動します。
	暗号化されたファイルをドラッグ&ドロップして復号化を実行します。クリックした場合も同様の復号化処理を実行します。
	暗号化、復号化、ログの記録等、詳細な設定を行います。
	プログラムのバージョン情報を表示します。

第4節 暗号化

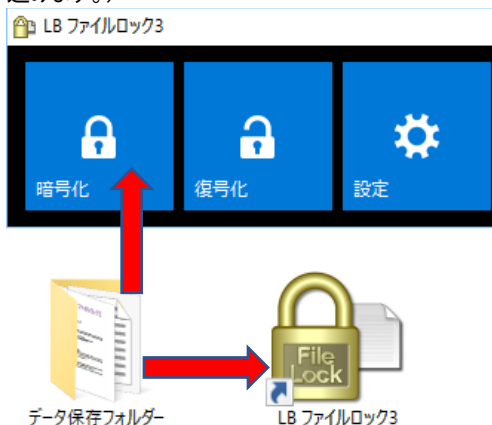
1. 操作方法は 2 通りあります。

A. ユーティリティーの「暗号化」をクリックして暗号化ウィザードを起動します。

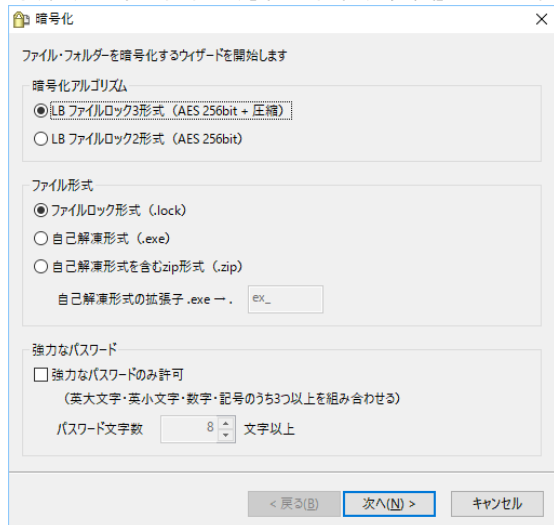


次のページ以降 A を例に説明しますが、操作の内容自体は A、B ともにほぼ同じです。便利な手順をご利用ください。

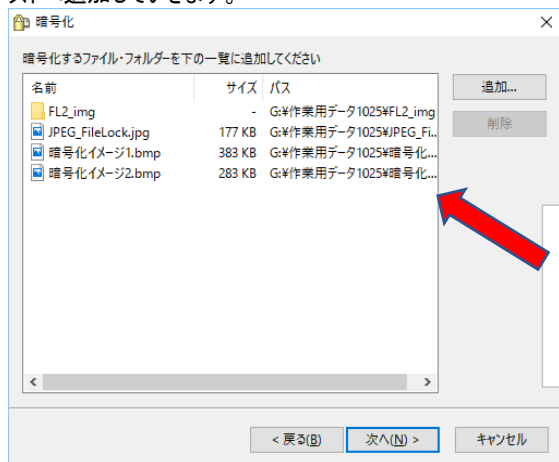
B. 暗号化するファイル/フォルダーをデスクトップアイコンまたはユーティリティーの「暗号化」にドラッグ&ドロップします。(この操作を選択した場合、手順 4 へ進みます。)



2. 暗号化アルゴリズム等を選択して「次へ」をクリックします。暗号化アルゴリズムの選択等、設定内容の詳細は、[第 6 節 設定変更](P74)をご参照ください。

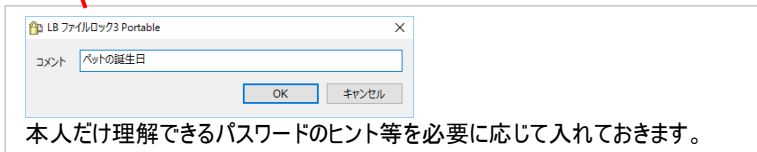
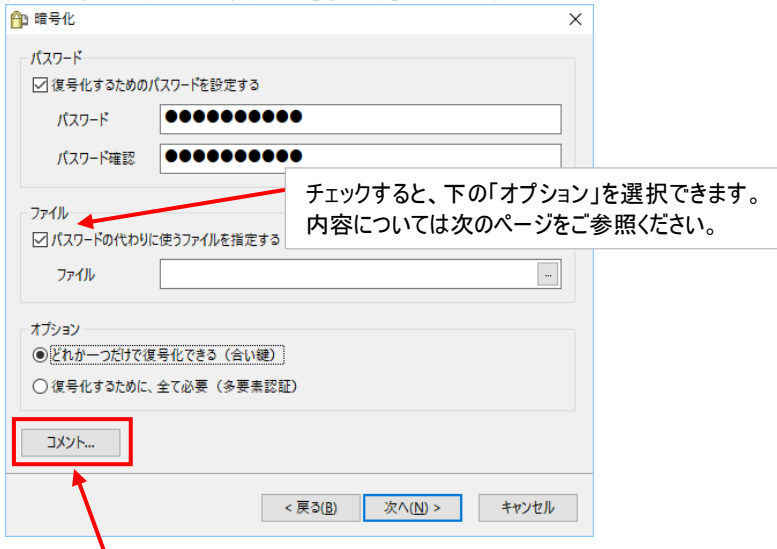


3. 暗号化するファイル/フォルダーを「追加」をクリックするか、直接ドラッグ&ドロップしてリストへ追加していきます。



4. 復号化のための認証方法(パスワード、認証用ファイル)を指定して「次へ」をクリックします。

設定内容の詳細は、次頁および[第 6 節](P74)をご参照ください。



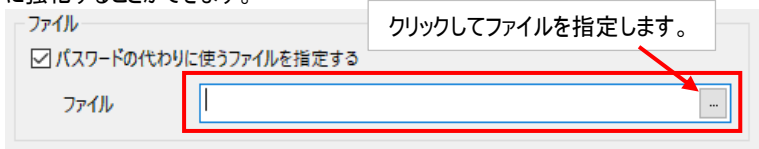
<パスワード>

使用するパスワードを入力します。パスワードは 1～63 文字までの英数字、記号、空白を含む半角(半角カナを除く)を指定することができます。

<ファイル>

パスワードの代わりに、またはパスワードにプラスして特定のファイルを復号化の認証用キーとして設定することができます。

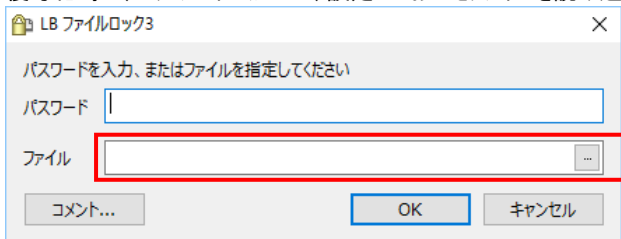
ここで指定したファイルを暗号化ファイルと別の場所に保存しておけばセキュリティを更に強化することができます。



指定できるファイルの種類に制限はありません。

認証用キーとして設定した後にファイルに編集を加えると、別ファイルと認識されるため復号化に利用できなくなります。画像ファイル等に目視不可の変更もできません。

復号化時に、パスワードに加えて、設定しておいたファイルを読み込ませます。



<オプション>

「パスワード」と「ファイル」の両方を設定した場合の認証方法を指定します。

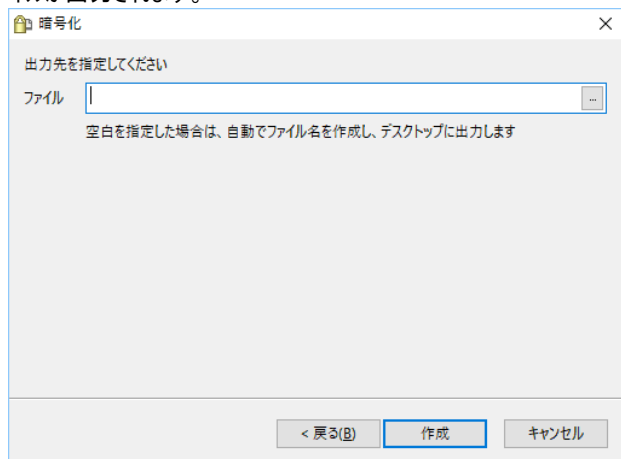
どれか一つだけで復号化できる(合鍵)

パスワードまたはファイルのどちらかを指定できれば復号化できます。パスワード忘れやファイルの紛失に備える場合にお勧めします。

復号化するためにすべて必要(多要素認証)

「パスワード」と「ファイル」の両方を指定しないと復号化することができません。暗号化ファイルのセキュリティを重視する場合にお勧めします。

5. 暗号化したファイルの出力先を指定して「作成」をクリックすると、指定したパスにファイルが出力されます。



暗号化されたファイルは以下のようになります。

名前	更新日時	種類
元のファイルです		
テスト用画像.bmp	2016/10/25 13:45	BMP ファイル
テスト用画像.bmp.lock	2016/10/25 13:47	LB ファイルロック3 ファイル
テスト用画像.bmp.exe	2016/10/25 13:48	アプリケーション

暗号化されたファイルにはファイル名の最後に「.lock」または「.exe」が付加されます。

テスト用画像 .bmp.lock	「LB ファイルロック3形式」にて暗号化したファイルです。 圧縮/非圧縮の場合で拡張子が変わることはありません。
テスト用画像 .bmp.exe	自己解凍形式にて暗号化されたファイル

ファイル/フォルダーの暗号化後、元のファイルはそのままの状態が残ります。元のファイルが不要な場合は、手動にて削除してください。

第5節 復号化

暗号化時と同様に、複数の操作方法から選択することができます。

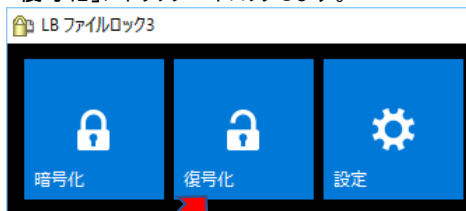
1. 操作方法は 2 通りあります。

- A. ユーティリティの「復号化」をクリックして暗号化ウィザードを起動します。
ウィザード起動後に暗号化ファイル(.lock)を指定します。




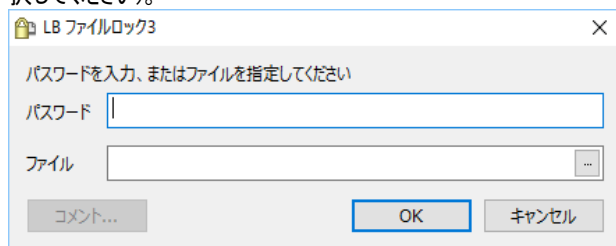
次のページ以降 A を例に説明しますが、操作の内容自体は A、B ともにほぼ同じです。便利な手順をご利用ください。

- B. 復号化するファイル/フォルダーをデスクトップアイコンまたはユーティリティの「復号化」にドラッグ & ドロップします。



復号ファイルの出力先を指定していない場合はデスクトップが出力先となります。

- 暗号化時に指定したパスワードを入力します(認証用ファイルを設定している場合は、「ファイル」にファイルのパスを入力するか、からエクスプローラーを起してファイルを選択してください)。



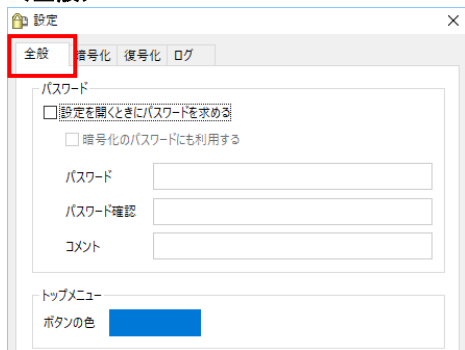
- 指定の出力先に復号化されたファイルが生成されます。

復号化の処理後、復号化前の暗号化ファイルはそのままの状態が残ります。
暗号化ファイルが不要な場合は、手動にて削除してください。

第6節 設定変更

プログラムの動作や暗号化、復号化の設定を変更する場合は、「設定」をクリックします。「全般」「暗号化」「復号化」「ログ」のタブを切り替えて設定をおこないます。

<全般>



「パスワード」

設定内容を保護するためのパスワードを設定します。復号化に使用するパスワードにも利用する場合は「暗号化のパスワードにも利用する」をチェックしてください。

「暗号化」タブからパスワードの強度指定をすることができます。

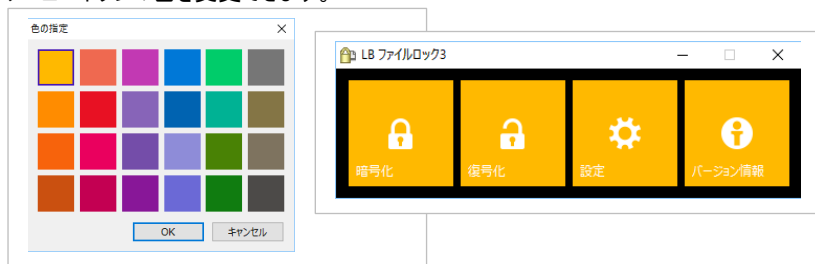
パスワードは大文字、小文字、全角、半角を識別します。

「コメント」

パスワード忘れを防ぐためのヒントを入力しておきます。

「トップメニュー」

メニューボタンの色を変更できます。



<暗号化>

暗号化ファイル生成時のオプションを設定します。

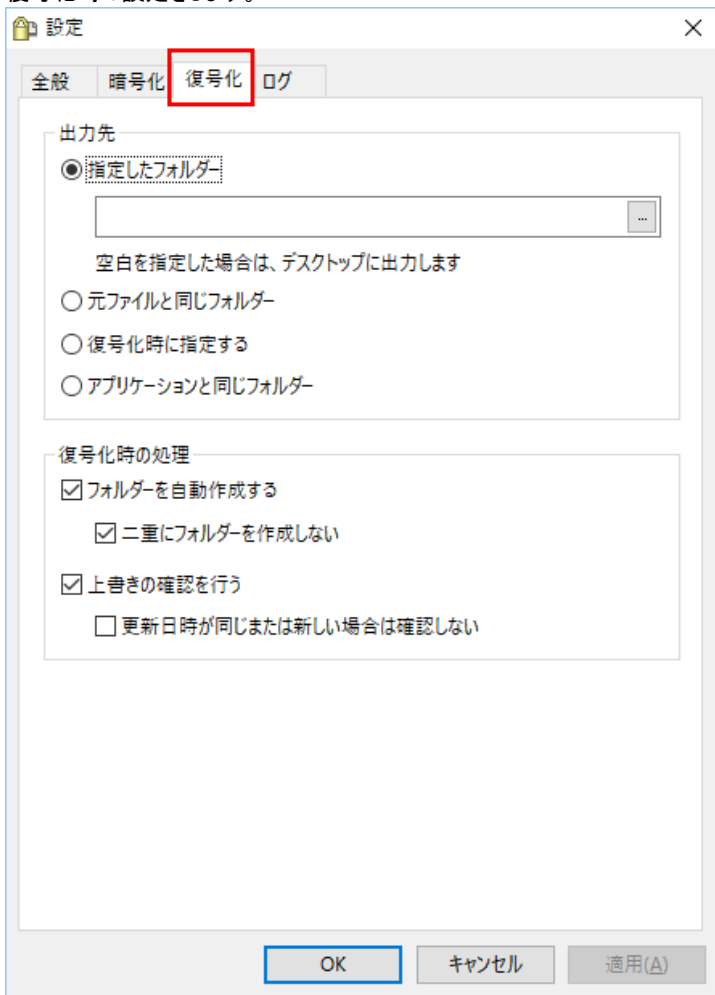


暗号化の設定内容

出力先	
指定したフォルダー	「参照」をクリックして暗号化したファイルの出力先を指定します。
元ファイルと同じフォルダー	暗号化する前のファイル／フォルダーが存在するフォルダーに暗号化したファイルを出力します。
暗号化時に指定する	ファイルをアプリケーションアイコンにドラッグ&ドロップした時に出力先を指定するウィンドウが表示されます。
アプリケーションと同じフォルダー	「LB ファイルロック3.exe」が存在するフォルダーに暗号化したファイルを出力します。
暗号化アルゴリズム	
LB ファイルロック3形式 (AES256bit+圧縮)	暗号化に加えて圧縮処理をしたファイルを生成します。 (ディスクスペースを節約したい場合等に便利です)
LB ファイルロック2形式(AES256bit)	暗号化したファイルを生成します。
ファイル形式	
ファイルロック形式(.lock)	通常はこちらの形式で暗号化を実行します。復号化には次のいずれかのプログラムが必要です。『LB ファイルロック3』、『LB USBロック2 Pro』、『LB ファイルロック2』、『LB ファイルロック リーレシーバー』
自己解凍形式(exe)	暗号化ファイルはExe形式の実行ファイルとして生成されます。復号化時に『LB ファイルロック3』を必要としません。
自己解凍形式を含むzip形式(.zip)	自己解凍形式(exe)のファイルをメール等に添付すると、多くの場合、メール受信プログラムや、ウイルス対策ソフトがマルウェアと判断して、添付ファイルを削除します。この挙動を回避するために、自己解凍形式ファイルをzip形式に圧縮します。またウイルス対策ソフト等による誤判断を防ぐため、ファイル拡張子は一般に「ex_」のように変更しておきます。
強力なパスワード	
強力なパスワードのみを許可	類推し易いパスワードの使用をしたくない場合に必要に応じて設定してください。要件を満たさないパスワードを指定すると、暗号化の処理を進めることができなくなります。

<復号化>

復号化時の設定をします。

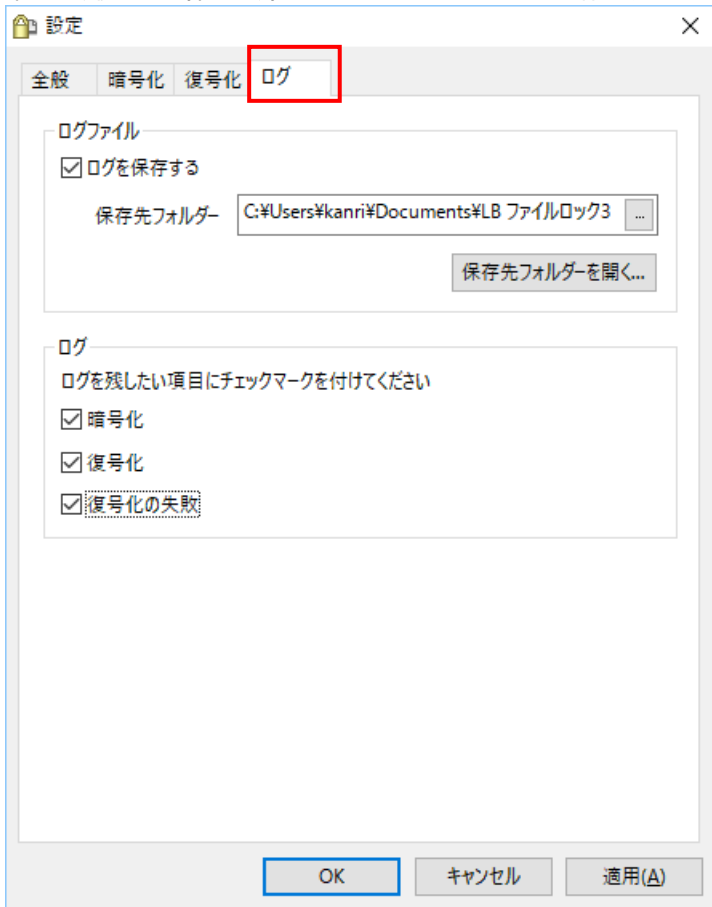


設定内容

出力先	
指定したフォルダー	「参照」をクリックして暗号化したファイルの出力先を指定します。
元ファイルと同じフォルダー	暗号化する前のファイル／フォルダーが存在するフォルダーに暗号化したファイルを出力します。
復号化時に指定する	ファイルをアプリケーションアイコンにドラッグ＆ドロップした時に出力先を指定するウィンドウが表示されます。
アプリケーションと同じフォルダー	「LB ファイルロック3.exe」が存在するフォルダーに暗号化したファイルを出力します。
復号化時の処理	
フォルダーを自動作成する	復号化時にフォルダーを自動作成して復号化するファイル／フォルダーを格納します。
2重にフォルダーを作成しない	フォルダーを二重に作成しません。
上書きの確認を行う	復号化するファイル／フォルダーの出力先に既に同じ名前のファイル／フォルダーが存在する場合、上書き確認のメッセージを表示します。
更新日時が同じまたは新しい場合は確認しない	復号化するファイル／フォルダーの更新日時が同じまたは新しい場合は上書きの確認メッセージを出力せずそのまま上書きします。

<ログの記録>

暗号化、復号化の操作記録を CSV 形式のログファイルとして保存することができます。



設定内容

ログファイル	
ログを保存する	ログを記録する場合にチェックします。
保存先フォルダー ※	ログファイルの保存先を指定します。
保存先フォルダーを開く	エクスプローラーを起動して、ログが保存されたフォルダーを開きます。
ログ	
暗号化	暗号化の操作を記録します。
復号化	復号化の操作を記録します。
復号化の失敗	復号化の失敗(パスワード違い、操作のキャンセル等)を記録します。

※ ログの保存先は初期設定でローカルPCのドキュメントフォルダーが設定されています。保存先のパスは『LB ファイルロック3』のアプリケーションが存在するドライブ上に変更しておくことをお勧めします。

ログの例(MS Excelにて開いています)

ログイン名	年月日	時刻	ログ種類	ログ種類詳細	タイトル	パス1	パス2
kanri	2016/10/26	8:53:03	LB ファイル暗号化		成功	C:\保存フォルダー\保存フォルダー\VL3.lock	
kanri	2016/10/26	8:53:42	LB ファイル復号化		成功	C:\保存フォルダー\保存フォルダー\archive20160929\archive201611227.pst	
kanri	2016/10/26	8:53:44	LB ファイル復号化		成功	C:\保存フォルダー\保存フォルダー\archive20160929\archive_news.pst	
kanri	2016/10/26	8:56:24	LB ファイル暗号化		成功	C:\保存フォルダー\保存フォルダー\会議メモ.txt.lock	
kanri	2016/10/26	8:56:48	LB ファイル暗号化		成功	C:\保存フォルダー\保存フォルダー\新製品のご案内.pdf.lock	
kanri	2016/10/26	8:57:13	LB ファイル復号化		成功	C:\保存フォルダー\保存フォルダー\VL3\portable\LB ファイルロック3.exe	
kanri	2016/10/26	8:57:14	LB ファイル復号化		成功	C:\保存フォルダー\保存フォルダー\VL3\スタート.exe	
kanri	2016/10/26	10:18:34	LB ファイル復号化の失敗		キャンセル	C:\Users\kanri\Desktop\VL3_files.lock	
kanri	2016/10/26	10:25:03	LB ファイル復号化の失敗		パスワードが	C:\Users\kanri\Desktop\画面ショット.bmp.lock	
kanri	2016/10/26	10:25:09	LB ファイル復号化の失敗		キャンセル	C:\Users\kanri\Desktop\画面ショット.bmp.lock	

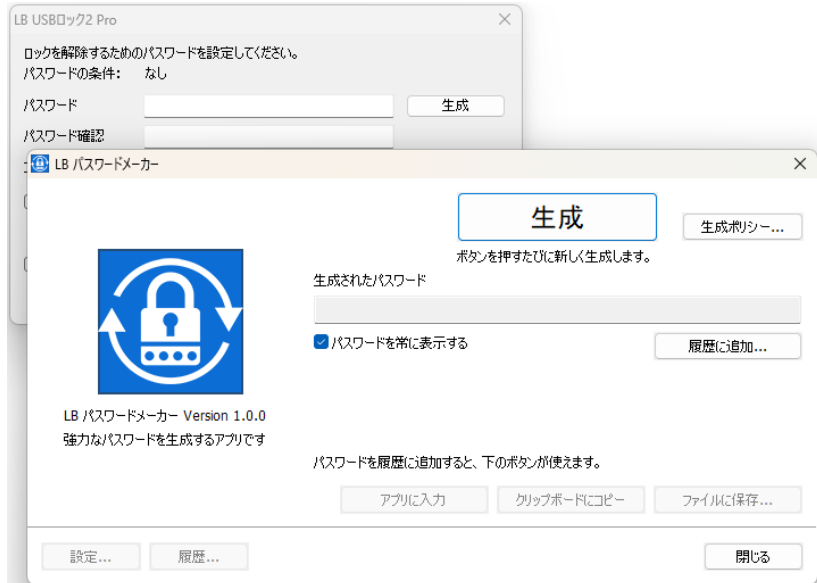
第6章 LB パスワードメーカー

第1節 LB パスワードメーカーについて

『LB パスワードメーカー』はユーザーが指定した生成ポリシーに基づいてパスワードを自動生成、管理することのできるツールです。

単独での利用だけでなく、『LB USBロック2 Pro』と連携して利用することができます。

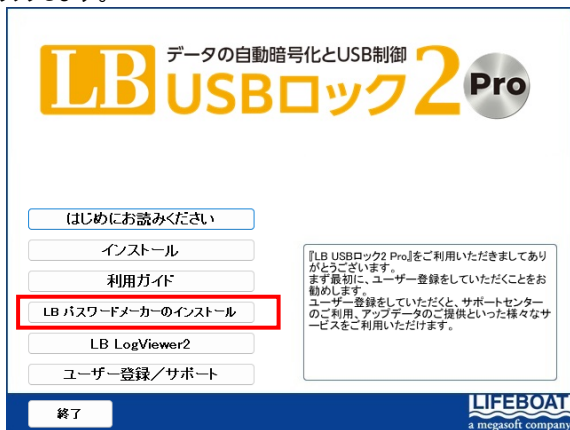
※ インストールは必ず管理者権限でWindowsにログオンしてから実行してください。



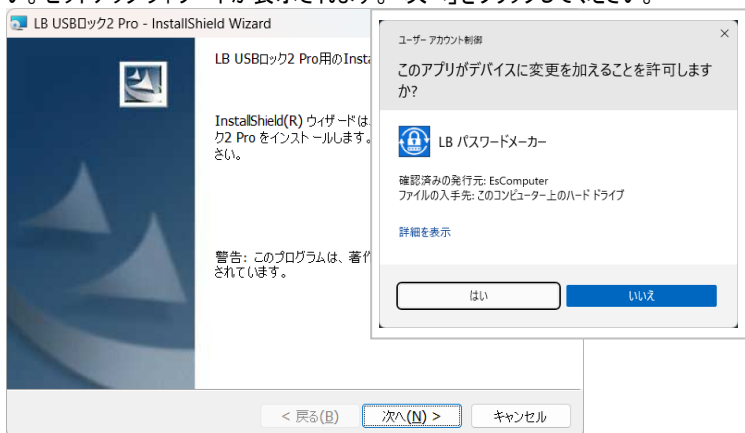
第2節 インストール

インストールの手順について説明します。

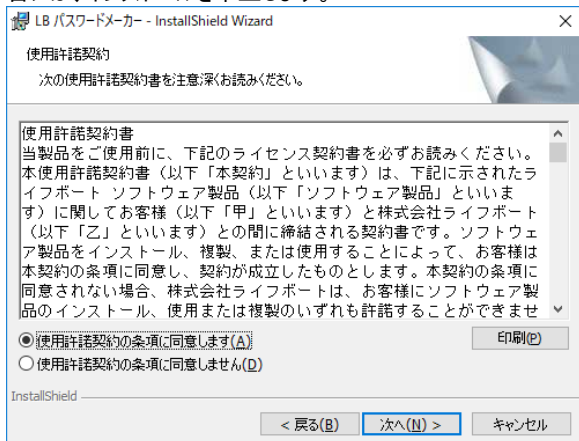
1. CD-ROM のインストールメニュー画面から「LB パスワードメーカーのインストール」をクリックします。



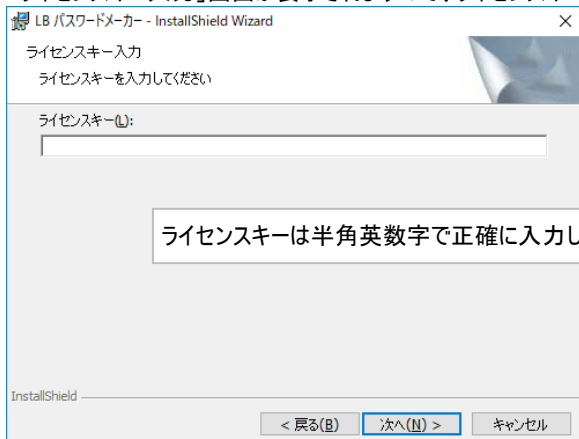
2. ユーザーアカウント制御に関するメッセージが表示されたら「はい」をクリックしてください。セットアップウィザードが表示されます。「次へ」をクリックしてください。



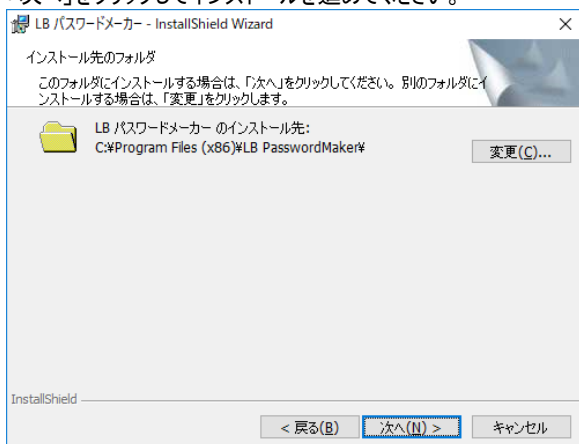
3. 「使用許諾契約」画面が表示されます。契約内容をよくお読みいただき、同意いただける場合は「使用許諾契約の条項に同意します」、同意いただけない場合には「使用許諾契約の条項に同意しません」を選択してください。同意いただけない場合には、インストールを中止します。



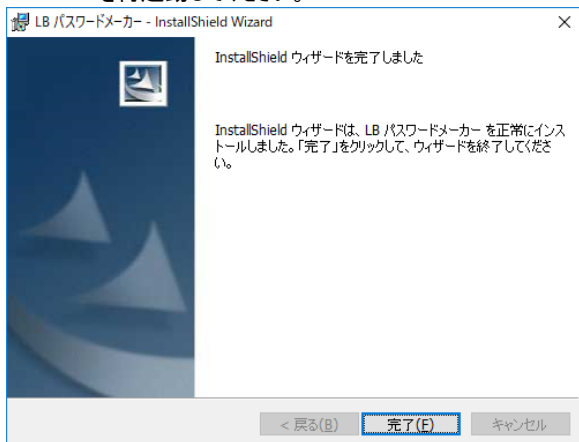
4. 「ライセンスキー入力」画面が表示されますので、ライセンスキーを入力してください。



5. 「次へ」をクリックしてインストールを進めてください。



6. インストール完了の画面が表示されます。以上でインストール作業は完了します。Windows を再起動してください。

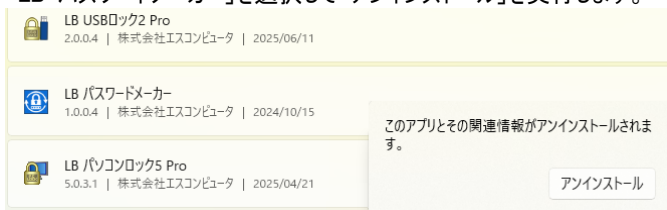


第3節 アンインストール

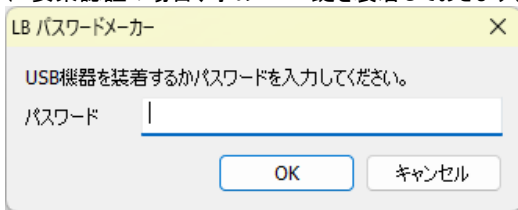
『LB パスワードメーカー』のアンインストール手順を説明します。

※ アンインストールを開始する前に、予め管理者権限のあるユーザーで Windows にログオンしておく必要があります。

1. Windowsの「スタート」から「設定」-「アプリ」-「インストールされているアプリ一覧」より「LB パスワードメーカー」を選択して「アンインストール」を実行します。



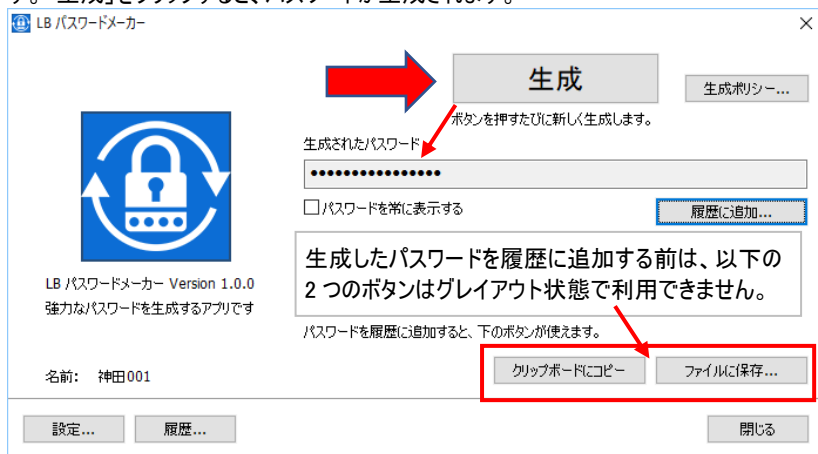
2. 認証でプログラムを保護している場合はロックを解除する必要があります。(2要素認証の場合、予めUSB鍵を装着しておきます。)



3. アンインストール後にシステムを再起動してください。

第4節 ユーティリティー

「スタート」から「LB パスワードメーカー」を選択すると、以下のユーティリティーが起動します。「生成」をクリックすると、パスワードが生成されます。



ユーティリティーの操作ボタン

生成	クリックすると、生成ポリシーに基づいてパスワードを出力します。
生成ポリシー	パスワードに利用する文字の種類や文字数を設定します。設定内容は次頁をご参照ください。
履歴に追加	生成したパスワードを履歴に追加して、管理できるようにします。
クリップボードにコピー	生成したパスワードをクリップボードにコピーします。他のアプリ等に貼りつける場合に利用します。
ファイルに保存	生成したパスワードをテキスト形式のファイルに保存します。
設定	プログラムのパスワード保護やユーザー設定を行います。
履歴	これまでに生成したパスワードの履歴を表示します。

第5節 生成ポリシー

「生成ポリシー」をクリックして、生成されるパスワードの文字数や種類等のルールを設定します。

生成ポリシー ×

パスワード文字数 文字(8~85)

文字の種類

- 英大文字
- 英小文字
- 数字
- 記号

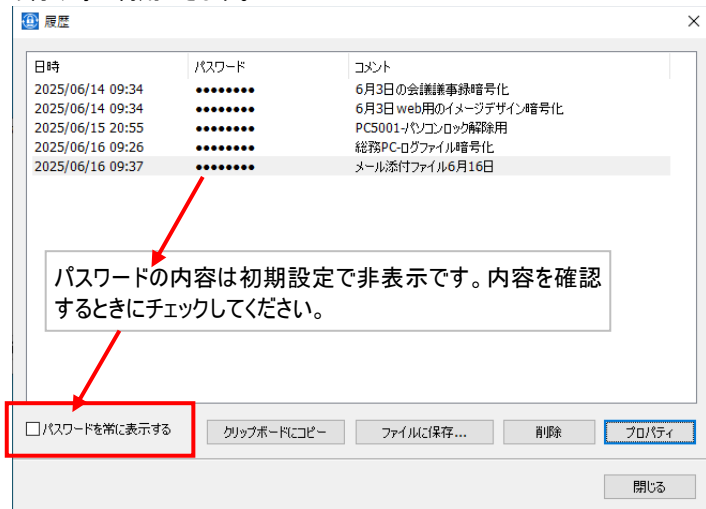
オプション

- 文字を重複させない
- 文字の種類を連続させない
- 似通った文字を使わない(II10o0)

生成ポリシーの設定内容	
パスワード文字数	パスワードの文字数を8～85文字の間で指定します。
文字の種類	使用できる文字の種類を指定します。使用したくない記号は手動で削除してください(削除した文字は「全て」をクリックするとボックス上に復活します)。
オプション	チェックしておくと、識別し難い文字(「0」ゼロや「o」オー等)の使用を禁止したり、文字の重複を避けたりすることができます。

第6節 履歴

これまでに生成したパスワードの履歴を表示します。履歴は生成したデータの保存や、貼り付け等に利用できます。



履歴画面について	
クリップボードにコピー	選択したパスワードデータをクリップボードへコピーします。
ファイルに保存	選択したパスワードデータをファイルに保存します。 データの一括選択はできません。
削除	選択した履歴を削除します。
プロパティ	履歴のプロパティを表示します(コメントを書き換えることができます)。

第7節 設定

ユーザーを追加して、履歴の閲覧や生成ポリシーの変更を制限することができます。
※ 追加できるユーザーは1名だけです。

設定 ×

パスワード

起動時とアンインストール時にパスワードを求められます

[起動パスワードの設定...](#)

名前

空白を指定した場合、名前は「管理者」となります

ユーザー

LB/パスワードメーカーを使用するユーザーを追加できます
ユーザーの使用範囲を許可・制限することができます
ユーザーを追加する場合、管理者として「起動パスワードの設定」が必要です

ユーザーを追加する

- パスワードの設定が必要
- 生成ポリシーの設定を許可
- 履歴の閲覧を許可

起動時にパスワードを求められます

[ユーザーパスワードの設定...](#)

名前

空白を指定した場合、名前は「ユーザー」となります

[設定をエクスポート...](#) OK キャンセル

設定画面について	
パスワード	
起動パスワードの設定	プログラムやデータを保護するためのパスワードを設定します。2要素認証を利用して強力な保護を設定することもできます(次頁)。
名前	ユーザー名を設定します。管理上便利な名前を指定します。
ユーザー	
ユーザーを追加する	追加ユーザーの権限(ポリシー設定、履歴閲覧等)を設定できます。
ユーザーパスワードの設定	追加ユーザーで起動する場合のパスワードを設定します。クリックすると、「起動パスワードの設定」と同様の認証方法の設定画面が表示されます。
名前	追加ユーザーに名前を設定します。
設定をエクスポート	設定情報をファイルにエクスポートします(履歴は含まれません)。エクスポートファイル名は LBPMInstallSetting.dat となります。設定のインポートは、エクスポートファイルとインストーラを同一フォルダーに置いてインストールを実行します。

起動パスワードを設定すると、起動時に以下の認証ウィンドウが表示されます。

LB パスワードメーカー ×

USB機器を装着するかパスワードを入力してください。

ユーザー

パスワード

<起動パスワードの設定/ユーザーパスワードの設定画面>

×

このアプリ起動時に要求するパスワードの設定ができます。
パスワードの代わりにUSB機器を設定することもできます。
両方にチェックを入れたら、2要素認証または合鍵にすることができます。

パスワード

パスワードを設定する

パスワード

パスワード確認

USB機器

USB機器を設定する

ベンダーID: 0x096E

プロダクトID: 0x0201

シリアル番号: B954DA4032469C7C 選択...

オプション

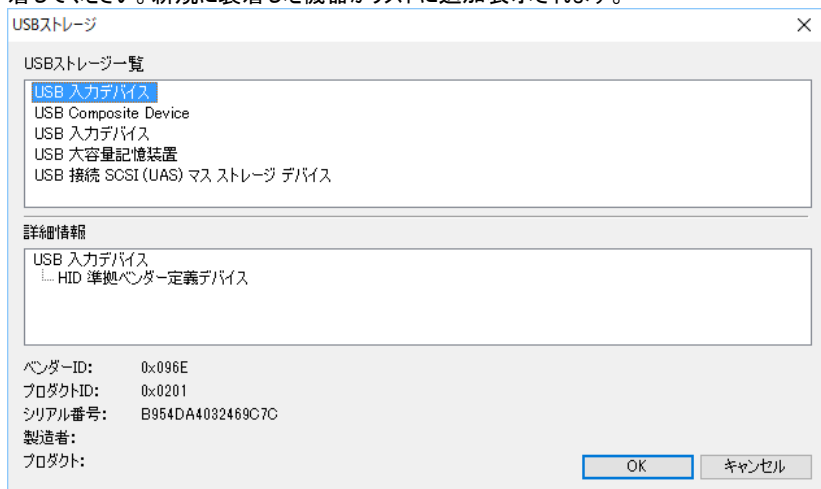
USB機器とパスワードのどちらか片方だけでロックを解除できる(合鍵)

ロックを解除するために、USB機器とパスワードの両方が必要(2要素認証)

起動パスワードの設定/ユーザーパスワードの設定画面

パスワードを設定する	認証にパスワードを利用する場合、チェックしてパスワードを設定します。
USB機器	認証にUSB機器を利用する場合、チェックして「選択」をクリックすると、次頁の「USBストレージ」選択画面が表示されます。
オプション	パスワードとUSB機器の両方を設定した場合、合鍵または2要素認証のどちらを利用するか選択します。 2要素認証の場合、機器の破損や紛失には対応できません。

「USB機器の選択」をクリックすると以下の画面が表示されます。
画面が表示されたら、表示内容を確認してから鍵として利用したいUSB機器をPCに装着してください。新規に装着した機器がリストに追加表示されます。



ノート PC 等では、USB 機器を装着しない状態でも上記画面のように複数の機器がリストに表示されることがあります。内蔵の無線デバイスやポインティングデバイス等が考えられますが、これらを誤って認証用機器に設定すると認証のトラブルの元になります。

使用許諾契約書

当製品をご使用前に、下記のライセンス契約書を必ずお読みください。本使用許諾契約書（以下「本契約」といいます）は、下記に示されたライフポート ソフトウェア製品（以下「ソフトウェア製品」といいます）に関してお客様（以下「甲」といいます）と株式会社ライフポート（以下「乙」といいます）との間に締結される契約書です。ソフトウェア製品を開封、インストール、複製、または使用することによって、お客様は本契約の条項に同意し、契約が成立したものとします。本契約の条項に同意されない場合、株式会社ライフポートは、お客様にソフトウェア製品のインストール、使用または複製のいずれも許諾できませんので、予めご了承ください。

第1条 定義

- ソフトウェア製品
本契約に基づき、乙が甲に提供するプログラムおよび関連資料を包括していい、改良版のソフトウェア製品が提供された場合には、当該改良版のソフトウェア製品をいう。
- プログラム
機械読取可能な形式で提供されるデータ処理プログラムをいう。
- 関連資料
プログラム以外の資料で、乙がプログラムの使用に関連して提供する、乙指定の資料をいう。

第2条 契約の目的

乙は甲に対しソフトウェア製品を非独占的に使用する譲渡不能な権利を許諾する。

第3条 契約期間

本契約は、本契約成立時から、甲または乙が本契約に従い解約するまで存続する。

第4条 使用权

- 甲は、プログラムをライセンスに付き1台のコンピュータで使用することができる。また、印刷物の形で提供されたソフトウェア製品を本契約の目的に従って使用することができる。
- 甲は、本契約に基づく使用权につき再使用权を設定し、またはソフトウェア製品もしくはその複製物を第三者に譲渡、転貸もしくは占有の移転をしてはならない。ただし、甲の管理の下で甲のためにソフトウェア製品を第三者に使用させる場合はこの限りでなく、甲の使用とみなすものとする。
- 甲がマルチライセンスパックを購入した場合、本契約以外の書面（パッケージ等）において指定される許諾数だけのコンピュータにインストールできる。

第5条 複製権

甲は、ソフトウェア製品の一部または全部をバックアップコピー作成のためにのみ、複製及び複写することができる。甲は上記の目的以外のために、ソフトウェア製品の一部または全部を、メディアを問わず、転写、複製または複写してはならない。

第6条 危険負担

納入前に生じたソフトウェア製品および記録媒体の喪失または損傷は、甲の責に帰すべきものを除き乙の負担とし、納入以後に生じたこれらの損害は乙の責に帰すべきものを除き甲の負担とする。

第7条 保証

- ソフトウェア製品の媒体及び関連資料に、物理的欠陥がある場合、甲がソフトウェア製品を購入してから90日間に限り、無償で乙より交換を受けることができる。
- 乙は、ソフトウェア製品が甲の特定の使用目的に適合することを保証するものではない。また、前項において明示する場合を除き、本ソフトウェア及びサポートサービスに関して一切の保証を行わないものとする。
- 前各項の定めは、本契約に基づく法律上の瑕疵担保責任を含む、乙の保証責任のすべてを指定したものとする。

第8条 乙の責任および責任の制限

- プログラムの不稼働を含む稼働不良のすべての場合において、乙の責任は誤りの訂正に合理的な努力を尽すことに限られるものとする。
- 法律上の請求の原因の種類を問わず、乙は、法律上許容される最大限において、本ソフトウェア製品の使用もしくは使用不能、サポートサービスの提供もしくは提供不能またはその他本契約書に関して生じる特別損害、付随的損害、間接損害、派生的損害、またはその他の一切の

損害（逸失利益、機密情報もしくはその他の情報の喪失、事業の中断、人身傷害、プライバシーの喪失、誠実義務または合理的な注意義務を含めた義務の不履行、過失、またはその他の金銭的損失を含むがこれらに限定されない）に関しては、乙の過誤、不法行為（過失を含む）、無過失責任、契約違反または保証違反の場合であっても、一切責任を負わないものとする。たとえ、乙がこのような損害の可能性について知らされていた場合でも同様である。

3. 本ソフトウェア又はサポートサービスに起因して、甲、もしくはその他の第三者に生じた結果的損害、付随的損害及び逸失利益に関して、乙は一切の責任を負わないものとする。本契約のもとで、理由の如何を問わず、乙が甲、又はその他の第三者に対して負担する責任の総額は、損害の原因となった本ソフトウェアに対して本契約のもとで甲が実際に乙へ支払った対価の100%を上限とする。

第9条 著作権等の侵害に関する損害賠償責任

1. ソフトウェア製品の使用が、第三者の著作権または工業所有権等の知的所有権を侵害したという理由で、甲が第三者より請求を受けた場合には、甲が次の各号所定のすべての要件を満たす場合には、乙の責任と費用負担で、当該請求を処理解決するものとし、甲に一切の損害を及ぼさないものとする。
 - (1) 甲が第三者から請求を受けた日から速やかに、乙に対し請求の事実および内容を通知すること。
 - (2) 甲が第三者との交渉または訴訟の遂行に関し、乙に実質的な参加の機会および決定の権限を与え、ならびに必要な援助をすること。
2. 乙は、甲が次の各号の一に該当する場合には、甲に対し前項所定の責任を負わない。
 - (1) 甲が乙提供以外のプログラムと組み合わせ使用したこと起因するとき。

- (2) 甲が本契約に違反してソフトウェア製品を使用したことに起因するとき。

第10条 ソフトウェア製品の変更または改作

甲は、自己の使用のため、必要な場合を除き「乙の許可なく」ソフトウェア製品を変更、または改作してはならない。

第11条 解約および解除

1. 甲は、乙に30日前の書面による通知をして、任意に解約することができる。
2. 甲または乙は、相手方に次の各号に掲げる事由の一が生じたときには、なんらの催告なしに直ちに本契約を解除することができる。
 - (1) 支払いの停止または破産、和議開始、会社更正手続開始、会社整理開始もしくは特別清算開始の申立があったとき。
 - (2) 手形交換所の停止処分を受けたとき。
3. 甲または乙は、本契約に違反すること等相手方の債務不履行が相当期間を定めた催告後も是正されないときは、本契約を解除することができる。
4. 前各項の適用によりソフトウェア製品の使用権が消滅した場合には、甲は返還または破棄の手続きを行うものとする。

第12条 ソフトウェア製品の返還または破棄

1. 甲は、使用権の消滅後2週間以内にソフトウェア製品およびすべての複製物（変更または改作されたものを含む）を、乙に返還しまたは破棄するものとする。
2. 甲は、前項による返還または破棄と同時に、前項所定の事実を証明する書類を乙に提出する。

第13条 合意管轄

本契約に関し訴訟の必要が生じた場合には、乙本店所在地を管轄する裁判所を専属管轄裁判所とする。

第14条 協議

本契約に関して疑義が生じた場合には、両当事者は信義誠実の原則に従い協議するものとする。

LB USBロツク2 Pro 利用ガイド

2025年6月17日

第1版

(非売品)

著作 株式会社ライフポート

発行所 株式会社ライフポート

東京都千代田区神田神保町2-2-34

©2025 株式会社ライフポート
